

令和 6 年 第 1 回

武蔵村山市教育委員会臨時会

令和 6 年 7 月 2 6 日

武蔵村山市教育委員会

令和6年第1回武蔵村山市教育委員会臨時会

1 日 時 令和6年7月26日(金)

開会 午前 9時30分

閉会 午後 2時08分

2 場 所 武蔵村山市役所301会議室

3 出席委員 池谷光二(教育長) 大野順布
杉原栄子 比留間雅和
潮美和

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長	鈴木 義雄	学校教育担当部長	東口 孝正
教育総務課長	佐藤 哲郎	指導・教育センター担当課長	加藤 由裕
指導主事	石井 和成	指導主事	丹羽 千晶
教科書採択資料作成委員会委員長		榎戸千代子	
教科書採択資料作成委員会委員		飯星 健司	
教科書採択資料作成委員会委員		島田 治	
教科書採択資料作成委員会委員		福泉 宏介	
教科書採択資料作成委員会委員		井内 潔	

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課教育政策係 濱谷 綾祐
岡宮 輝

議事日程

- 1 会期の決定
- 2 議案第39号 武蔵村山市立中学校令和7年度使用教科用図書の採択について
- 3 議案第40号 武蔵村山市立小学校特別支援学級令和7年度使用教科用図書の採択について
- 4 その他

◎開会の辞

○池谷教育長 本日の会議に際しまして、26名の方から傍聴の申出があり、武蔵村山市教育委員会会議規則第29条の規定に基づき、会議の傍聴を許可しましたので報告いたします。

本日の出席委員は全員でございます。

なお、傍聴に際しまして、皆様をお願いをいたします。

傍聴に際しましては、武蔵村山市教育委員会傍聴規則に基づき、傍聴人の遵守事項をお守りくださいますようお願いいたします。

これより、令和6年第1回武蔵村山市教育委員会臨時会を開会いたします。

◎日程第1 会期の決定

○池谷教育長 日程第1、会期の決定を議題といたします。

本定例会の会期は、本日限りといたしたいと思っております。

これに御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○池谷教育長 御異議なしと認めます。

したがって、会期は本日限りといたします。

◎日程第2 議案第39号 武蔵村山市立中学校令和7年度使用教科用図書の採択
について

○池谷教育長 日程第2、議案第39号 武蔵村山市立中学校令和7年度使用教科用図書の採択についてを議題といたします。

武蔵村山市教育委員会会議規則第15条の規定により、武蔵村山市立中学校令和7年度使用教科用図書の採択に係る説明のため、教科書採択資料作成委員会委員の出席を求めます。

校長先生方、どうぞ前のほうにお進みください。

しばらくお待ちください。

(教科書採択資料作成委員会委員 入室)

○池谷教育長 委員の校長先生方、本日はお忙しい中、ありがとうございます。何とぞよろしくをお願いいたします。

会議を再開いたします。

議案の朗読は省略させていただきます。

それでは、議案第 39 号の提案理由を説明させていただきます。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条の規定により、中学校令和 7 年度使用教科用図書を採択する必要があるため、本案を提出するものでございます。

よろしく御審議の上、御決定を賜りたくお願い申し上げます。

なお、別紙につきましては、協議終了後に配布させていただきます。

教科用図書とは、いわゆる教科書のことですが、教科用図書採択の事務につきましては、この後、加藤指導・教育センター担当課長より説明をいたさせ、その後、教科書採択資料作成委員会からの報告のありました内容につきまして、教科書採択資料作成委員会の榎戸千代子委員長より説明いたさせますので、よろしく願いいたします。

なお、説明の後、御質問等がございましたら、各教科の委員がお答えいたしますので、よろしく願いいたします。

加藤指導・教育センター担当課長、お願いします。

○加藤指導・教育センター担当課長 議案第 39 号 武蔵村山市立中学校令和 7 年度使用教科用図書の採択について、大きく 3 点、御説明申し上げます。

大きな 1 点目は、全ての教科書を調査対象とする採択資料の作成事務についてです。

武蔵村山市立学校令和 7 年度使用教科用図書採択要領に基づき、学校調査会、教科書調査研究委員会及び教科書採択資料作成委員会を設置しました。

資料作成に当たっては、次の 3 つの観点から調査研究を依頼しました。

1 点目が内容、2 点目が構成上の工夫、3 点目が特長についてです。

なお、学校調査会につきましては、特長についてのみ調査研究を依頼しました。

お手元には、資料 1、教科書採択資料作成委員会報告書を配布させていただいております。

大きな 2 点目は、教科書展示会及び御意見等に関する報告です。

今年度は、武蔵村山市教育センター及び三ツ木地区図書館の 2 か所を会場といたしました。教育センターでは、法定展示及び特別展示を令和 6 年 6 月 12 日から 7 月 4 日まで、計 17 日間行いました。三ツ木地区図書館では、法定展示及び特別展示を令和 6 年 6 月 20 日から 7 月 4 日まで、法定展示及び特別展示を計 14 日間行いました。

当展示会に来場され、来室者カードを御提出いただいた方は延べ 50 名でございました。そのうち市内小・中学校児童・生徒の保護者と記入された方が 4 名、市内在住と記入された方

が43名、市外在住と記入された方が3名でした。

また、お寄せいただいた御意見の総数は42件でした。そのうち、市内小・中学校児童・生徒の保護者と記入された方からのものは3件、市内在住と記入された方からのものは39件、市外在住と記入された方からのものが2件でございました。

なお、お寄せいただいた御意見の内容については、委員の皆様には、事前に御確認いただいているところでございます。

また、来室者及び意見数につきましては、来室者カードを御記入いただけなかった方がいたことから、御報告させていただきました人数及び件数は、あくまで参考となりますので御了承ください。

大きな3点目は、教科書採択に当たり教育委員会に寄せられました要望・意見等についてです。

今回の教科用図書採択について、教育委員会に寄せられました要請等は2件でございます。

1件目は、武蔵村山子どもの教育と文化を育てる会から、令和7年度使用中学校全科教科書採択についての要請を文書で頂戴しております。

こちらにつきましては、4月に開催いたしました令和6年第4回定例会にて御説明済みですので、ここでの御説明は省略いたします。

2件目は、在日本大韓民国民団西東京地方本部から、武蔵村山市管内中学校における歴史教科書の採択に関する要望書として文書で頂戴しております。

こちらにつきましても、7月に開催いたしました令和6年第7回定例会にて御説明済みですので、ここでの説明は省略いたします。

これらの要望事項については、4月に議決をいただきました教科用図書採択要領に基づき、適正かつ公正に採択を行うことから、特段の対応等の必要はないものと考えております。

以上でございます。

○池谷教育長 ただいまの事務局からの説明につきまして、御質問等ございませんでしょうか。委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 質問がないようですので、次に資料1、教科書採択資料作成委員会の報告書につきまして、同委員会、榎戸千代子委員長より説明を求めます。

榎戸教科書採択資料作成委員会委員長、よろしく願いいたします。

○榎戸教科書採択資料作成委員会委員長 それでは、資料1、教科書採択資料作成委員会報告

書を基に、国語から順次、説明させていただきます。

なお、発行者名につきましては略称にて申し上げます。

まず、国語につきましては、発行者は4社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい国語」です。

資料にはSDGs等、現代的な諸課題が取り込まれており、読解力のみでなく様々な知識を広げられる構成になっております。学力調査の分析から、多様なテーマの作品を扱い、各領域に沿った教材が選定されております。

次に、三省堂の「現代の国語」です。

説明文に取り上げられる題材は、生徒の興味・関心を引くものが多く、資料の読み取りに漫画を用いるなど、生徒の発達段階に考慮した工夫がされております。また、「学びナビ」や「学びの道しるべ」が單元ごとに示されており、主体的な学習に取り組めるきっかけづくりになっております。

次に、教出の「伝え合う言葉 中学国語」です。

国語科で学んだ知識・技能を総合的な学習の時間や社会の授業と関連させて活用ができるよう工夫されております。また、AI技術や情報モラルの育成など、時事課題を題材として扱っており、身近な課題を知るだけでなく、自分事として捉えて考えを深められるよう工夫されております。

次に、光村の「国語」です。

読み物教材は、道徳教材との関連を図った内容を取り上げており、豊かな心やコミュニケーション能力の育成を図ることができるようになっております。読み物教材の最後に設けられている「学びの扉」や「学びのカギ」は、学習内容の振り返りやその後の学習活動に生かせるものとなっております。

続きまして、書写につきましては、発行者は4社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい書写」です。

ユニバーサルデザイン書体や左利きの生徒への配慮など、全ての生徒にとって学習に取り組みやすくなっております。身に付ける知識や技能を「書写のかぎ」と称し、3学年を通して段階的・系統的に学習を積み重ねられるよう工夫されております。

次に、三省堂の「現代の書写」です。

冒頭に「書き方を学ぼう」という学習のポイントが明確に提示されており、毛筆学習の後には、硬筆で確かめる「書いて身につけよう」が設けられております。必修の学習内容を扱う

「本編」と日常生活に必要となる書式や伝統文化に関する資料を確認できる「資料編」の2部構成となっております。

次に、教出の「中学書写」です。

「文字の大きさと配列」、「学校生活に生かして書く」など、生徒自身が課題を見つけ、主体的に課題解決に取り組めるように、教材を選択することができるようになっております。よい姿勢を保つ工夫と鉛筆や筆の効率のよい持ち方、毛筆における筆遣いなど、適切に運筆する能力を高める活動を行う教材の充実が図られております。

次に、光村の書写「中学書写」です。

知識・技能の習得と活用を繰り返しながら、着実に基礎・基本が定着できるようにまとめられております。文字に関する様々な知識や視点となる資料が随所に示されており、書く意欲や文字そのものへの興味・関心が持てるように工夫されております。

続きまして、社会（地理的分野）につきましては、発行者は4社でございます。

初めは、東書の「新編 新しい社会 地理」です。

探究課題の設定から、課題追究、情報収集・考察、課題解決とまとめをスムーズに行えるようになっており、まとめでは自らの思考を整理するための様々なツールが用意されております。「探究課題を解決しよう」では、キャラクターの会話を参考にして自分の言葉で課題解決についてまとめることができるようになっております。

次に、教出の「中学社会 地理 地域にまなぶ」です。

「特設・クロスロード」を設け、歴史的な分野や公民的分野と関連する話題や、教科書での学習をより多面的・多角的に考察できる話題を取り上げ、本時とは異なる視点から学習を進められるよう工夫されております。小学校から移行しやすいように多くの振り返りが取り入れられております。

次に、帝国の「社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」です。

臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、主体的に各地の地域的特色を捉えられる本文やコラムがバランスよく盛り込まれております。「技能をみがく」コーナーが設けられ、「地理的な見方・考え方」をはたらかせる上で必要な技能が習得できるように工夫されております。

次に、日文の「中学社会 地理的分野」です。

「地域のあり方」では、発表へ進めるためのテーマの設定から発表までの手順を示し、効率よく学習できるようにされております。章末のまとめと振り返りでは、考えをまとめるた

めに必要な知識を確認する設問があり、自分の考えをまとめ、グループで討論できるよう例が設けられております。

続きまして、社会（歴史的分野）につきましては、発行者は9社でございます。

初めは、東書の「新編 新しい社会 歴史」です。

1時間の学びを振り返る「チェック&トライ」が見開きごとに掲載されており、本時の学びを個人で振り返られるようになっております。課題解決学習においては、様々な手法のまとめ学習ができるようになっており、多面的・多角的な見方も身に付けられるよう工夫されております。

次に、教出の「中学社会 歴史 未来をひらく」です。

人物や文化財中心の学習をヒントにした導入ページが多く設けられ、生徒が主体的に資料を活用しやすくなっております。深い学びを実現するために、「THINK」、「TRY」といった設問で、資料を活用し、生徒間の学び合いを支援する問いも充実しております。

次に、帝国の「社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き」です。

時代ごとにタイムトラベルと題した当時の様子を描いた見開き資料が提示されており、人々の営みや時代の特色が大観できるようになっております。「地域史」、「人物史」を扱うページや、対話を伴う「アクティブ歴史」が設けられており、多面的・多角的に日本の歴史を捉えられるようになっております。

次に、山川の「中学歴史 日本と世界 改訂版」です。

大学入試にも必要な知識や詳細な資料が多数掲載されており、高等学校の歴史学習にもスムーズに接続することができるようになっております。「歴史へのアプローチ」では、多面的・多角的な歴史の見方・考え方を養うコラムが掲載されております。

次に、日文の「中学社会 歴史的分野」です。

振り返り学習は、年表を用いて知識の確認、時代の特色を様々な思考ツールを用いて発表する共同的な学習と、自らの学びの変容を読み解く課題が設けられております。現代が抱える課題を教材として多数掲載しており、解決に向けて、歴史を踏まえて多面的・多角的に考えることができるようになっております。

次に、自由社の「新しい歴史教科書」です。

学習課題が明確であり、近代を中心に歴史的背景の記述が詳細になされ、歴史の背景を体系的に深く学習するきっかけを得ることができる内容となっております。既習の学習の人物カードを作るほか、人物伝記を書くことで、学習内容を深めていく工夫がされています。

次に、育鵬社の「新しい日本の歴史」です。

我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色、身近な地域の歴史、様々な伝統や文化、我が国の歴史的背景にある世界の歴史などの学習課題について、生活目線と考え判断し、考えを深める教材構成となっております。歴史的背景について詳細な記述が多いのが特徴となっております。

次に、学び舎の「ともに学ぶ人間の歴史」です。

各章の最初にその時代を象徴する資料を提示し、時代の特徴に気づくことができるように工夫されております。生徒たちが調べるほか議論することを重視する内容となっており、1単位時間に学習する範囲の大小の見出しが、他社の教科書と比べると独創的なものが多くなっております。

次に、令書の「国史教科書 第7版」です。

本書は、縦書き記述が大きな特長となっております。戦争関連の記述については、外交関係について多角的な視点を取り入れ、詳細に書かれております。本編各ページに「確認」、「表現」を設け、章末の特色を考えさせるところで、まとめと話し合い学習につなげる構成となっております。

続きまして、社会（公民的分野）につきましては、発行者は6社でございます。

初めは、東書の「新編 新しい社会 公民」です。

学習課題の発見、理解を深める工夫、まとめや振り返りについてのプロセスが示されており、生徒が主体的に学習を進めやすい工夫がされております。特設ページ「18歳へのステップ」が設定されており、主権者意識を高め、主体的に社会に参画する態度を養う工夫がされております。

次に、教出の「中学社会 公民 ともに生きる」です。

社会への関心を高め、自ら行動していこうとする態度を涵養する特設ページが充実しており、責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や持続可能な社会の創造を目指そうとする意欲を高めることができるようになっております。

次に、帝国の「社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して」です。

学習前に見つけた課題を、学習した内容を基にどのように解決するかなどを書き込むページが設けられております。本文ページと連動したシミュレーション型の「アクティブ公民」という発展学習により、対話を通して学びを深める単元構成となっております。

次に、日文の「中学社会 公民的分野」です。

社会参画を促す「明日に向かって」があり、主権者として自らの人生を主体的に切り拓く力を身に付けられるようになっております。終章では、持続可能な社会の実現のための課題を生徒自らが設定し、その解決に向けて考察、構想する課題探究学習が設けられております。

次に、自由社の「新しい公民教科書」です。

「もっと知りたい」では、課題にアプローチできるように様々なテーマを紹介しており、「アクティブに深めよう」では課題の設定から解決まで、学習を深められる工夫がされております。現代社会の最新の課題であるSDGsやビッグデータ、人工知能(AI)などに係る資料が豊富に掲載されております。

次に、育鵬社の「新しいみんなの公民」です。

現代社会の時事問題についての資料が多数掲載されているため、興味・関心を持って学習できるよう工夫されております。「物々交換ゲーム」などアクティビティ例も多く掲載されているため、生徒は活動を通して、経済的概念を理解することができるようになっております。

続きまして、地図につきましたは、発行者は2社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい社会 地図」です。

自然環境や世界と日本の文化、人口や産業などが分かりやすくまとめられており、公民の学習と関連付けることができるようになっております。また、防災のページが特に充実しており、様々な視点から防災への考察を進めることができるようになっております。

次に、帝国の「中学校社会科地図」です。

州別鳥瞰図により世界への関心を高められ、人々の営みを通した日本の国土理解ができる地図表現が行われております。また、日本の領土を正しく理解できる豊富な地図資料により、世界と日本の地域的特色を捉えることができるようになっております。

続きまして、数学につきましたは、発行者は7社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい数学」です。

各学年の章の導入を「学び方のページ」として、単純な計算で決まりを見つけることや、予想する活動が取り入れられております。また、日常、地域、仕事と数学のつながりを強調することで、現実世界と数学とのつながりを意識させ、数学の有用性を感じさせる構成になっております。

次に、大日本の「数学の世界」です。

コラムのページが充実しており、自ら興味・関心を持って学習に取り組むことのできる工夫がされております。目次には関連する既習学習が明記されており、生徒が自分で過去の内

容まで遡って理解の不足している学習内容を補うことができるようになっております。

次に、学図の「中学校 数学」です。

各章・各節の初めに「疑問を発見する」ページが設定されており、生徒が身近な場面から疑問を発見することで、自然と生徒の主体的な学びにつながるような工夫がされております。また、「トライ」や章末の「深めよう」で、高等学校数学の内容にスムーズに触れられるように構成されております。

次に、教出の「中学数学」です。

「数学しごと人」では、数学と関わりながら社会で活躍している方へのインタビュー内容が掲載されており、実社会で数学が役に立っていることや数学を学ぶことのよさ、意義を実感することができるようになっております。巻末の「学びのマップ」では、既習内容がまとめられており、復習できるよう工夫されております。

次に、啓林館の「未来へひろがる数学」です。

「ひろげよう」では知識を基に考えることや、予想する活動が設けられており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようになっております。各単元の節の導入には、「学びのとびら」として、身の回りの教材が題材として取り上げられております。

次に、数研の「これからの数学」です。

学習の前に関連する既習事項を振り返るページや、巻末には学びの自己評価のページがあり、チェックリストも設けられております。全体を通して生徒と教員の対話型形式での展開で構成され、問題解決の流れが分かりやすく工夫されております。

次に、日文の「中学数学」です。

「次の章を学ぶ前に」では、既習事項の確認ができるため、基礎・基本の定着を図ることができるようになっております。問いの近くには補充問題のページが掲載されており、家庭学習に活用しやすくなっております。また、巻末には演習量の多い総合問題も掲載されております。

続きまして、理科につきましては、発行者は5社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい科学」です。

身の回りの事象について考える場面や、生徒が自ら問題に気づき考える導入を設けることで、生徒の興味・関心を引き出す内容となっております。探究のステップを言語化してアイコンで示し、探究の流れを常に確認しながら生徒が主体的に学習を進められるように工夫されております。

次に、大日本の「理科の世界」です。

基礎的な知識・技能の習得に向けた図表や写真が充実しており、生徒がつまずきやすい問題は「例題」で丁寧に説明がされております。SDGs、防災・減災など日常生活や文化、科学技術、環境保全などにつなげて考え、幅広く、教科横断的に活用できる資料が掲載されております。

次に、学図の「中学校 科学」です。

「課題をとらえる」、「実施する」、「結果から考察する」の構成となっており、生徒が見通しを持って体験的な学習や課題解決等の学習に取り組むことができるようになっております。科学的探究の過程で話し合いが意識できるように、探究の仮説設定や計画立案の場面に生徒の話し合いが提示されております。

次に、教出の「自然の探究 中学理科」です。

導入では、生徒が実際に調べてみたくなる魅力ある事象や、2つの異なる事象を効果的に提示し、生徒が自然に対して関心や調べる意欲を持てるよう工夫されております。「学習前の私」、「学習後の私」として、生徒自身の科学的な概念の変容を認識させる場面が設けられております。

次に、啓林館の「未来へひろがるサイエンス」です。

教科書の流れは発達段階に応じて探究学習に慣れることができ、「探Q実験」では仮説や計画を生徒に考えさせる工夫がされております。AB判を生かし、大きな写真を多用するダイナミックな構成で、資料は非常に見やすい工夫がされております。

続きまして、音楽（一般）につきましては、発行者は2社でございます。

初めは、教出の「中学音楽 音楽のおくりもの」です。

音楽史の流れを表す「日本と西洋の音楽の歩み」では、音楽発展の軌跡が丁寧に説明されております。創作活動においては、発達段階に応じた内容を扱っており、最終段階では「CMソングをつくろう」という生徒の主体的な学習への意欲が高まる教材になっております。

次に、教芸の「中学生の音楽」です。

各学年の心情や音域、表現力等の実態に合った楽曲が選曲され、音楽史の流れ、発展の軌跡、楽曲・作曲家についての説明が分かりやすい選曲がされております。創作活動において、目標達成のための学習活動や考えたいポイントが生徒自ら気づきやすいように工夫されております。

続きまして、音楽（器楽合奏）につきましては、発行者は2社でございます。

初めは、教出の「中学器楽 音楽のおくりもの」です。

器楽の解説においては、楽器の写真や構造図、リコーダー、ギターの運指表、コード表等が折込みであり、楽器をカテゴリーごとに比較できるページが設定されております。鑑賞教材に関連した旋律や有名な旋律を取り上げていて、知っている楽曲を演奏することができるよう工夫されております。

次に、教芸の「中学生の器楽」です。

様々な角度から音楽とは何かを伝え、時代に合った音楽のメッセージをテーマとして、生徒が学習意欲を高める工夫がされております。学習目標とその達成のための学習活動、音楽の要素、考えたいポイントが全学年共通した構成となっており、それらのポイントが生徒自ら気づきやすい工夫がされております。

続きまして、美術につきましては、発行者は3社でございます。

初めに、開隆堂の「美術」です。

色彩の資料は、基礎の他に「色の印象」や「色の調子」について学ぶことができ、著作権について大変分かりやすく説明されており、著作物に関する知識をしっかりと身に付けることができるようになっております。表紙の加工は、手触りで作品のイメージを感じることができるようになっております。

次に、光村の「美術」です。

表現と鑑賞を相互に関連させる工夫がされており、制作前の鑑賞、表現活動の工夫例、生徒作品の鑑賞といった授業の流れを意識した内容となっております。別冊資料では、基礎的な知識を補う内容がまとめられております。日本画を掲載したページでは、紙の種類を和紙にしており、手触りで作品のよさを感じられるよう工夫されております。

次に、日文の「美術」です。

学びの資料として技法、知識が細かく紹介され、1冊で美術の基礎が学べるようになっております。表現の題材にも「鑑賞の入り口」により表現と鑑賞を連携させており、各ページでそれぞれの目標を達成できるようになっております。「みんなの工夫」では、制作時に考えたことや試したことが書かれ、作品を仕上げるまでの流れが分かり、制作を進めやすい工夫がされております。

続きまして、保健体育につきましては、発行者は4社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい保健体育」です。

各章扉に小・中学校、高等学校に関連する学習内容が明記され、系統性が重視されており

ます。「命や健康を守る」ためのスキルが身に付く資料や、保健体育の学習への意欲が高まる資料が豊富に掲載されております。

次に、大日本の「中学校保健体育」です。

導入から話し合いなどの学習活動、実生活に生かす活動まで様々な活動を設定できるような工夫がされております。イラストなどで国籍や男女の役割を限定しない点や、多様性の相互理解を育むような配慮がされております。

次に、大修館の「最新 中学校保健体育」です。

イラストや写真などが豊富であり、グラフが最新のものであるため、生徒が頭の中でイメージがしやすくなっております。各項目の最後に1時間の学習の内容を確認できる課題や学んだことを生かして考える課題があり、生徒が自ら考え、判断できる力を育める構成となっております。

次に、学研の「新・中学保健体育」です。

導入は生徒への質問からスタートしているため、課題に主体的に取り組むことができるようになっております。身の回りの様々な課題に目を向けやすい提示がなされ、課題解決力や実践力を養うことができるように工夫されております。章末の関連資料では、当時の日本や世界の状況、社会的背景も学べ、視野を広げられるようになっております。

続きまして、技術・家庭（技術分野）につきましては、発行者は3社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology」です。

教科書の各編が「生活や社会を支える技術」、「技術による問題解決」、「社会の発展と技術」で構成され、各編の冒頭には学習の到達目標がはっきりと示されているため、見通しを持って学習を進めることができるようになっております。また、基礎的・基本的な学習内容が押さえられており、実習で役立てることができるようになっております。

次に、教図の「新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する」です。

各編では、問題発見、課題設定、知識・技能を活用した課題解決に取り組む流れを基に構成されており、技術の見方・考え方の形成ができるようになっております。別冊「スキルアシスト」では、作業時に必要な技術がカラーで掲載されており、実習作業で役に立つようになっております。

次に、開隆堂の「技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて」です。

章末の「学習のまとめと表現」は、既習事項のまとめや発展的な学習に活用できるよう工夫されております。日本の伝統的な技術や文化の理解、様々な職業の掲載は、自身のキャリ

ア形成に気づかせ、進路選択の幅を広げ、継承・発展に寄与する態度を養うことができるようになっております。

続きまして、技術・家庭（家庭分野）につきましては、発行者は3社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して」です。

多様な実習例が多く、学校の実態や生徒の個性に応じた実践的・体験的な学習活動をする工夫がされております。教科書の構成が自立から共生へ向かうストーリー展開で、生徒が興味・関心を持ちやすく、男女共同参画社会やダイバーシティなどのテーマは分かりやすい写真資料が使われております。

次に、教図の「新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する」です。

多様な視点から学びを深めるよう実践的・体験的な取組が掲載されております。よりよい生活や持続可能な社会を構成する資料提示が分かりやすく、フェアトレードなどグローバルな視点を現代の話題として取り上げ、生徒がSDGsに関心・興味を持つきっかけづくりがされております。

次に、開隆堂の「技術・家庭 家庭分野 自立とともに支え合う生活へ」です。

中学生の実情に合った身近な内容を教材にしており、イメージをつかみやすい資料も豊富で、学習効果が期待できるようになっております。「人が尊重される生活」を自分事として読める文章で書かれており、持続可能な社会の構築に向かう意識を養えるように配慮されております。

続きまして、英語につきましては、発行者は6社でございます。

初めに、東書の「NEW HORIZON English Course」です。

基礎・基本の定着を図る上で、適宜ターゲットセンテンスを取り上げた練習問題があるため、それらを意識して学習に取り組むことができるようになっております。生徒が知っている著名人を題材に扱っている単元や、各学年の発達段階に応じた題材も扱っており、内容面においても生徒の興味を引く工夫がされております。

次に、開隆堂の「Sunshine English Course」です。

各単元における文法の絞り込みが明確であり、生徒が文法の理解をするのに最適な教材が揃えられております。また、その文法を使用した言語活動も充実しており、文法として理解するだけでなく会話の場面での使い方を理解することで、どのように使用するかの理解まで定着させる構成となっております。

次に、三省堂の「NEW CROWN English Series」です。

小学校の学習を踏まえて、音声面を重視したトピック英会話から始まる構成になっております。視覚的教材として漫画のコマ割りで場面が表現されており、より目的・場面・状況が理解しやすくなっていることや、ロールプレイシートがあり、自分で判断し、表現する活動を行いやすくなっております。

次に、教出の「ONE WORLD English Course」です。

1年生で早くも簡単な過去形の表現が用いられるなど、従来の文法導入にとらわれない言語活動が設定されています。また、1年生の最終Unitでは、SDGsに関する取組について扱う内容となっており、早い段階から英語を通して社会的な話題に触れられるようになっております。

次に、光村の「Here We Go! ENGLISH COURSE」です。

生徒に言語有用性を感じさせながら学習に取り組みせる工夫があり、それぞれの活動が単元末活動の達成に向けたスモールステップになっていることが大きな工夫となっております。SDGsなど話題を集める社会的な内容を盛り込み、グローバル的視点や考え方を育むことができるように工夫されております。

次に、啓林館の「BLUE SKY English Course」です。

小学校で慣れ親しんだ会話表現を用いた活動や目標設定がされており、小学校で「聞く」、「話す」を中心に学んできたことを踏まえて、中学1年生の前半では「話すこと」が活動の中心となっております。各学年の構成は同じ学習活動を進めやすい工夫がされており。

最後に、道徳につきましては、発行者は7社でございます。

初めに、東書の「新編 新しい道徳」です。

身近な教材や防災、SDGs、多様性などの「現代的な諸課題」が充実しており、教材やコラムの中で積極的に取り上げているため、生徒が意欲的に教材に向き合える工夫がされております。書き下ろし教材があり、その中で4人の登場人物が3年間かけて友情を育てながら共に成長するストーリーが独創的となっております。

次に、教出の「中学道徳 とびだそう未来へ」です。

生徒に親しみのある人物をロールモデルとして、自分らしく、その人らしく生きる意欲を育てていく工夫がされております。特に深く考えさせたい「いじめ等の人権課題」、「持続可能な社会」、「生命の尊さ」を複数の教材とコラムで構成し、問題の本質を多面的・多角的に深めさせられるようになっております。

次に、光村の「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」です。

多面的・多角的な見方や考え方ができるよう、切り口を変えた問いが設けられております。巻末の折込みに「まなびの記録」という1年間の学びを一目で確認できる表があり、記録することで自分の学びの軌跡を確認し、自分の成長を実感できるようにする工夫がされております。

次に、日文の「中学道徳 あすを生きる」です。

重点課題として、現代的・社会的な課題への対応、伝統と文化の尊重と国際理解、SDGsに関する内容が多く盛り込まれております。「いじめ問題」を重く受け止め、生徒が主体的に考え議論できるよう、多様な教材やコラムをユニット化して、年間で複数配置する工夫がされております。

次に、学研の「新版 中学生の道徳 明日への扉」です。

生徒の発達段階に適した形で、年間を通していじめ防止を多面的・多角的な視点から、自分との関わりで考えを深めるために、様々な内容項目の教材を用いて考えさせるようになっております。最も重要なテーマを「いのち」に置き、内容項目「生命の尊さ」を各学年で3本ずつ配置し、生命の尊さに改めて気づくようにさせております。

次に、あかつき図書の「中学生の道徳」です。

生徒の興味・関心を引き出し、探究心を育てる読み物資料として、スポーツ選手、人気の漫画、アニメなどを教材にし、興味・関心を持って入っていける工夫がされております。いじめが起こりやすい学年の初めの頃に「いじめ」に関連する教材を連続して掲載し、いじめについて考えさせる機会を持たせております。

次に、日科の「道徳 中学校」です。

「教材の視覚化」を図り、考え合ってほしいことに切り込ませる手段として、動画教材、導入動画、漫画教材が活用されております。教材を学習する際には、「何について学ぶのか」の先入観を持たせないため、学習する内容項目をあえて教材タイトルページに掲載しない工夫がされております。

以上で、中学校各教科教科書見本の内容説明を終わらせていただきます。

○池谷教育長 榎戸委員長、長時間にわたり、ありがとうございました。

これから質疑に入りたいと思います。

先ほど御説明いたしましたように、質問があれば教科書採択資料作成委員にお答えをいただき、内容をさらに深めていきたいと思っておりますので、何とぞよろしく願いいたします。

それでは、国語から順に質疑応答を行いたいと思っております。

まず、国語ですが、書写も含めまして御質問をいただきたいと思います。

委員の皆様、いかがでしょうか。

比留間委員、お願いいたします。

○**比留間委員** 昨年、小学校の教科書採択でも、二次元コードの活用については各教科で話題になったと記憶しております。国語ではその活用方法について、調査研究委員会で話題になったことはあるでしょうか。

○**池谷教育長** 榎戸委員長、お願いいたします。

○**榎戸教科書採択資料作成委員会委員長** 二次元コードの活用は、教材のイメージを膨らませるほか、やり方の例を紹介するときに大変有効であります。例えば、話し合い学習やディベートなどの討論を行うときに、実際に生徒がやっている動画を見せると、進め方や手順がより分かりやすくなります。

また、古典などでは、その当時使われていた道具や歴史上の建物などを映像で見ると臨場感があり、効果的です。さらに、聴覚に訴えるような詩や和歌、短歌などで、鳥のさえずりや川音などを映像とともに合わせて聞くと、情景を想像しやすくなります。

教材に合わせて導入で用いるほか、単元末で使って活用することができるという意見がありました。

○**池谷教育長** その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○**潮委員** 書写についてでございます。書写の時間というのは、各学年で年間どのくらい指導があるものなのでしょうか。また、中学校で書写というのは、評価に含まれているのでしょうか。お願いいたします。

○**池谷教育長** 榎戸委員長、お願いいたします。

○**榎戸教科書採択資料作成委員会委員長** 書写につきましては、第1学年及び第2学年では20時間程度、第3学年では10時間程度取り扱うという規定があり、その中で硬筆や毛筆の指導を行っております。

また、評価につきましては、3観点のうち、「知識及び技能」の(3)「我が国の言語文化に関する事項」に「書写」が含まれております。文字の字形や大きさ、配列などを理解して、文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や社会の生活に役立てる態度を育てるように指導しております。書いた作品を基に、求められる「知識及び技能」がどのくらい定着したかを「思考力・判断力・表現力等」と関連させて評価して

おります。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、社会ですが、社会につきましては、地理、歴史、公民、地図を含めて御質問をいただきたいと思います。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 地理的分野について1点お伺いいたします。

地理に関しましては、用語集や世界各国の面積や人口、そして国内ならば県別のデータなどを掲載した一覧表を巻末に載せている教科書もございまして、各社とも工夫を凝らしているように思います。

そこで、これら巻末の資料ですが、実際に授業の中で活用されることはありますでしょうか。お願いいたします。

○池谷教育長 飯星委員、お願いいたします。

○飯星教科書採択資料作成委員会委員 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身に付け、地理的な見方・考え方をはたらかせ、課題を追究することや、解決する活動を行っております。

具体的には、地域の環境条件や他地域との結びつき、人々の営みが相互に影響を及ぼしながら地域的特色が形成されていることを、広い視野に立ち、地域に係る諸事象や特色を理解させる活動を行っております。

世界や日本の諸地域が変容する様子を、地理的用語を使いながら、多種多様な資料から有用な情報を取り出し、適切に収集する技能を高めるために活用しております。

○池谷教育長 大野職務代理人、いかがでしょうか。

○大野職務代理人 ありがとうございました。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、数学に移りたいと思います。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 御質問がないようですので、次に、理科に移ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 理科につきましても御質問がないようですので、次に、音楽に移ります。

こちらも一般と器楽についてまとめて御質問いただきたいと思います。

比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 音楽（一般）についてです。2社とも2，3年生が上下巻で分かれています。学校ではどのように使われるのか、またその使い方について、どちらが使いやすいといった議論などはあったか教えていただきたいと思います。

○池谷教育長 島田委員、お願いいたします。

○島田教科書採択資料作成委員会委員 音楽（一般）は、基本的に上巻を第2学年、下巻を第3学年で使用しております。特に鑑賞教材につきましては、第1学年、上巻、下巻の順で、概ね時代が古いものから教材が配列されていますので、2社とも使いやすいつくりになっていると思います。

○池谷教育長 比留間委員、いかがでしょうか。

○比留間委員 ありがとうございます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○潮委員 音楽（器楽）についてでございます。中学校ではコロナ禍を経て、アルトリコーダーを学習していない学校もあるとお聞きしています。小学校からの接続を考えますと、アルトリコーダーを指導してもよいのではないかと考えますけれども、既にこうした実態がある中で、リコーダーの指導の記載内容について、調査研究委員会で何か話題になったことはありますでしょうか。

○池谷教育長 島田委員、お願いいたします。

○島田教科書採択資料作成委員会委員 アルトリコーダーについては、必ずしも取り扱わなければならないものではありませんので、ギターやお琴などの楽器を用いた授業を行っている学校もあります。

なお、指導の記載内容についてですが、各社ともリコーダーだけではなく、ギターの運指表が書かれているほか、二次元コードで演奏の仕方を見ることができますので、授業で学んだことの振り返りは個に応じて行いやすくなっているという意見がありました。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、美術に移ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 美術でございますが、3社とも2年生と3年生をまとめて美術2・3としておりますけれども、その中で日本文教出版は美術2・3を上巻と下巻の2冊に分けたつくりをしております。先生方からすると、2、3年で1冊がよいのか、それとも日本文教出版のように2、3年を上下巻に分けたつくりがよいのか、生徒に指導する上でどちらがよいという話がありましたでしょうか。お願いいたします。

○池谷教育長 福泉委員、お願いいたします。

○福泉教科書採択資料作成委員会委員 調査研究委員会の中では、2、3年で1冊になっているものは、学習の見通しが持てること、過去の学習を振り返るのに使いやすいという意見がありました。一方、上下巻のものは、軽くて扱いやすいという意見もありましたが、分冊になっていることが特長であり、内容について大きな差異はなかったというのが調査研究委員会での意見でした。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、保健体育に移ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 各社によって考える重点や感染症の資料の量が違いますが、資料の量や、その活用について、調査研究委員会で話題になったことはございますでしょうか。

○池谷教育長 榎戸委員長、お願いいたします。

○榎戸教科書採択資料作成委員会委員長 掲載している資料の量は、各社によって違いがあるものの、現在は一人1台端末を活用し、必要に応じてインターネット上の資料を参考にさせています。日常的にこのような授業を行っているため、教科書に掲載されている資料の量に関して、多少の違いがあっても特に問題はないと考えます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、技術・家庭に移ります。

技術・家庭につきましても、まとめてお伺いしたいと思います。

委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○潮委員 家庭分野についてお伺いいたします。今、市内の中学校では、正規教員ではなく講師の先生が授業されている学校が増えていると聞いております。その中で、講師の先生も様々な学校へ指導に行かなくてはいけない困難があると思います。こうした状況を踏まえて、どのような教科書が講師の先生にとって使いやすいなど、そういった意見は出ていますでしょうか。お願いいたします。

○池谷教育長 井内委員、お願いいたします。

○井内教科書採択資料作成委員会委員 市内の家庭科教員の状況ですけれども、正規の家庭科教員が配置されているのが5校中2校でございます。その他の3校は時間講師の先生です。

家庭科の調査研究委員の先生が時間講師の先生にお会いして教科書についての意見を求めることもなかなか難しいため、そうした視点での調査はしておりませんが、申し訳ございませんが、御理解いただきたいと思っております。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、英語に移ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 英語について、中学校では受験のこともあり、読み書きだけでなくリスニングや話すといった技能を身に付けることが大切だと思います。本市では、ALTが各地に配置されており、授業ではネイティブの発音を学ぶことができていると思いますけれども、デジタル教科書や二次元コードによる音声を聞くことも大切な学習だと考えます。授業では、デジタル教科書はどの程度活用されているのでしょうか。

○池谷教育長 島田委員、お願いいたします。

○島田教科書採択資料作成委員会委員 英語の授業では、デジタル教科書だけではなく、英語担当の教員が作成したパワーポイントなどを活用し、視覚的にも音声的にも生徒が理解しやすいよう工夫しています。そのため、必ずしもデジタル教科書だけを使っているわけではありませんが、英語の発音や聞き取りということであれば、ICTを活用しています。

なお、デジタル教科書や二次元コードで再生されるネイティブの発音や速さは各社で違いがあるということは、調査委員会で話題となりました。

○池谷教育長 杉原委員、いかがでしょうか。

○杉原委員 ありがとうございます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、道徳に移ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 教科書の構成について伺いたと思います。学習内容がバランスよく散りばめられているものと、学習内容ごとにまとめられているものがありました。それぞれ工夫をされているのと思いますが、学校ではある程度学習内容がまとめられていて、集中的に学ぶほうがよいのか、また、散りばめられているほうがよいのか、お聞かせいただきたいと思ひます。

○池谷教育長 榎戸委員長、お願いいたします。

○榎戸教科書採択資料作成委員会委員長 御質問のとおり、いじめや命の問題がユニットごとにまとめられており、ある期間に集中して学習するという工夫が発行者によってはあることについて、調査委員会では話題になりました。

学校では、使用する教科書を学校行事などに合わせて学ぶ時期を変えて、より効果的に学習ができるように学年で相談して計画を立てていますので、どのような教科書でも初めから順番に進めていくことはしておりません。どのような教科書でも指導順序は工夫しておりますので、特に構成について大きな問題はありませぬ。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 これにて質疑を終了いたします。

ここで説明していただきました教科書採択資料作成委員会の委員の皆様、校長先生方には退室していただきたいと思ひます。長時間ありがとうございました。

(教科書採択資料作成委員会委員 退室)

○池谷教育長 ここで暫時休憩といたします。

次は、10時50分に再開いたします。

午前10時32分休憩

午前10時50分再開

○池谷教育長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

日程第2、議案第39号の議事を継続いたします。

ここからは、協議に入ります。採択するにふさわしいと考える教科書につきまして、種目ごとに協議を行いますので、よろしくお願いいたします。

まずは、国語でございます。国語は4社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 各社ともよく考えてつくられている印象でございます。言い換えますと、高いレベルの教科書の中から一つを選ぶことの難しさを実感した次第でございます。

つくりとしては、4社とも単元ごとに文学作品などを掲載し、その作品から学び取ってほしい事柄を東京書籍であれば「てびき」、三省堂では「学びの道しるべ」、教育出版では「みちしるべ」、光村図書出版では「学びの扉」といったタイトルで段階を追いながら子供たちに考えてもらう形を取っておりますけれども、その部分を中心に4社を比べてみたところ、光村図書出版の「学びの扉」がスムーズに考えを展開させるつくりになっていると感じたところでございます。ところどころ必要と思われるところに「学びのカギ」や「学びの地図」といった学習の幅を広げるコーナーも設けられております。このことも含めまして、私としては、総合的に見まして光村図書出版がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 どの教科書も掲載されている内容や題材に極端な差はなかったかと思います。

いずれも巻頭で1年生の学習の見通しや単元ごとの重点的に学習する内容が記されており、読む・書く・話す・聞くといった学習のポイントがつかみやすいように工夫されていると思いました。

その中で東京書籍は、それらに加え「未来への扉」と題し、国語の学習をさらに発展させた「九つのテーマ」が記されており、学習の意欲をより高められるように感じたところです。

私としましては、東京書籍がよろしいのではないかと思います。

○池谷教育長 杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 どの教科書も主体的な学びを重視し、「話す・聞く・話し合う・書く・読む」視点に立って読みを深める工夫がされていると思いました。

2年生の教材の「走れメロス」は、挿絵も各社それぞれに工夫され、登場人物像について理解し、自分の考えを深めるように展開されていました。その中で光村図書出版と東京書籍は、「人物像を捉えるときには、登場人物の行動や会話、心情や考えなどを結びつけて考えることが大切である」と手だても分かりやすく示してありました。

古文の「枕草子」は、各社とも二次元コードで古典の仮名遣いなどの解説や朗読で学べるようになっていました。光村図書出版は、年表もあり、上段に原文、中段に解説、下段に要点、言葉の意味などがあり、宮仕えなど背景も分かりやすくまとめられていました。

また、光村図書出版の「思考の地図」では、マッピングやブレインストーミングなどの方法を使って「思考を広げる、整理する、深める」など実践的に手だてがまとめられていると感じました。

総合的に見て、光村図書出版がよいと思いました。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私は教育出版がよいと思います。単元に入る前に「学びナビ」が示されていることで、物語を読む際に気をつけることが明確だと思いました。中学校3年間の学びの目標というのは、高校受験だと思います。受験までの限られた期間を考えますと、1年生のときからしっかり身に付けてほしいと思うところがございます。

以上です。

○池谷教育長 大野職務代理者、杉原委員は光村図書出版、比留間委員は東京書籍、潮委員は教育出版との御意見をいただきました。2名が光村図書出版ということですが、比留間委員、潮委員、光村図書出版ということでもよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、書写に移ります。書写は4社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 書写は4社でございますが、東京書籍、三省堂、光村図書出版の3社は、B5判またはB5の変形判を採用しておりまして、教育出版だけがA B判と大きさが異なっております。

そのA B判の教育出版ですが、他の3社よりも横幅が広がっている分、その部分に表題

や学習の目標が記載され見やすく、全体的に余裕のあるつくりになっております。また、書写の活用例なども分かりやすく説明されていることから、私としては教育出版がよろしいかと考えております。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 いずれの教科書も基本的には巻頭で文字を書くときの姿勢や用具の使い方などから始まり、毛筆の筆圧を図式化するほか、文字のバランスを図形に当てはめたりするなど、とても分かりやすく工夫されていると思いました。

その中でも東京書籍については、教科書の最初の見開きのページで「文字を「書く」って、なんだろう」と文字を書くことの意義と申しますか、重要性や価値について書かれていて印象に残りました。他の教科書にも同様のことは書かれておりますが、最初に書かれているということで、書写を学ぶ目的が明確に意識されていると思ひまして、東京書籍がよいと思ひます。

○池谷教育長 杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 各社とも基本的なことを丁寧に示されていると思いました。また、二次元コードがどの教科書にもあって、用具の準備、片づけ、筆遣い、点画の書き方など、動画で大変分かりやすく説明され、自ら学べる工夫がされていると思いました。

手紙の書き方では、時候の挨拶が各社とも掲載されていましたが、その中でも東京書籍と光村図書出版はとても充実しており、特に光村図書出版は月別の例が載っていたのでとても参考になると思ひました。また、往復はがきの書き方について、各社とも触れてありましたが、自分に向けられた敬語は二重線で消すことや、「行」を二重線で消して敬称を書くことなど丁寧に説明されているのは光村図書出版と三省堂でした。

どの教科書もそれぞれに分かりやすく工夫がされていて、選ぶことが大変難しく感じられましたが、光村図書出版はコラムなどが充実していて楽しく学べること、ページ数が全部で165ページと一番多いこと、「書写ブック」が別冊としてついているので、実践的に練習できるよさがあることなどから、光村図書出版がよいと思ひました。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私は東京書籍がよいと思ひました。1年生の冒頭、小学校からの接続になりますが、毛筆の穂先の使い方、ただはねる、払うというだけではなく、擬音を使って子供たちに分か

りやすく説明をする工夫がありました。実際に指導もしやすいのではないかと思ったところ
でございます。

○池谷教育長 比留間委員と潮委員からは東京書籍、大野職務代理者からは教育出版、杉原委員からは光村図書出版との御意見をいただきました。2名が東京書籍ということですが、大野職務代理者、杉原委員、東京書籍ということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、社会に移ります。

まず、地理的分野でございます。こちらは4社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 各社とも写真や図を多用いたしまして、分かりやすく興味を持ってもらえるようなつくりをしております。その中から1社を選ぶというのは大変難しいところではございますが、私としては日本文教出版がよろしいかと考えております。

先ほど巻末の資料について質問させていただきましたが、日本文教出版は、巻末の294ページから297ページにかけて、世界の国別資料と日本の県別資料という一覧表を掲載しております。世界の国別資料は各国の面積や人口、日本の県別資料は同じく人口や面積、県庁所在地名や産業別人口比率など基本的データを表にしたものでございますが、それぞれの地域を他との比較という形で捉えることは理解に役立つのではないかと思ったところでございます。

私からは日本文教出版を推させていただきます。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 東京書籍は問題解決学習の流れとともに、地理を学ぶ見方が強調されてきました。教育出版、帝国書院、日本文教出版は、地理的な見方・考え方について強調されてきました。どの教科書も「位置や分布」、「場所」、「人間と自然の関わり」、「他地域との結びつき」、「地域の特徴」など5つの視点から学ぶ教科書であることが子供たちにも分かりやすいように説明されてきました。

時差については、日本、ロンドン、ニューヨークの3枚の写真が載せられて、とても分かりやすく展開されていたのは、東京書籍と日本文教出版でした。3枚の写真には、1月1日

午前0時のロンドン、1月1日午前9時の東京、12月31日午後7時のニューヨークなど日時が表示してあるので、何月何日の何時ということが分かった上で、さらに考えが深められると思いました。

世界の様々な気候の学習では、帝国書院は初めに5つの気候帯の特徴的な写真とともに、それぞれの気候帯の雨温図も並べて示されて、比較できるようになっていました。初めに全体を把握して、その後、それぞれの気候帯を学ぶことができるので、帝国書院の展開は理解が深まると思いました。

「アクティブ地理」では、未来に向けた現代的な課題を丁寧に取り上げている点でも、帝国書院はよいと思いました。

総合的に見て、帝国書院がよいと思います。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私も帝国書院がよいと思いました。全体を見たときに、「学習を振り返ろう」などの取組で子供の学びが乗りやすい構成であると感じました。また、文字の色や配色もよく、非常に見やすく、他に比べて秀でていたところがございます。

以上です。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 これは社会に限ったことではありませんが、基本的に全ての教科書において、学習の基礎の定着が図れるような振り返りの仕組みがあるもの、また、それぞれの教科が何のためにどのようなことを学ぶのかが分かりやすく書かれているという点に注目して見させていただきました。

生徒たちが各学年の学び始めにその教科に興味を持てるかによって、その後の学力の定着にも差が出てくるのではないかと考えております。そこで、地理のいずれの教科書もですが、各社工夫が凝らされておりまして、それまでに学んだことの振り返りができるように構成されておりまして、また、地図やグラフなどの挿絵、写真も多い中で、色彩もよく、非常に見やすいと感じたところでもあります。

また、学習の導入における地理的な見方・考え方などの内容から地理をどう学ぶのかという点においても工夫されておりまして、どの教科書を選んだらよいかということで、非常に迷っているところではございます。その中で、先ほど潮委員がお話しされたように、見やすさであれば帝国書院がよいというところもありますが、面白いと思ったのが日本文教出版であり、「地理を学ぶにあたって」と題し、地理という教科を擬人化して、地理について自己紹

介ふうに説明しております。こうした点から、日本文教出版、もしくは帝国書院がよいと思います。

○池谷教育長 杉原委員、潮委員からは帝国書院、比留間委員からは帝国書院または日本文教出版、大野職務代理者からは日本文教出版との御意見をいただきました。3名が帝国書院ということですが、大野職務代理者、比留間委員、帝国書院ということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、社会（歴史的分野）に移ります。こちらは9社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 歴史というのは、時の流れを意識して理解を進めるものだと思っております。そのため、多くの教科書には資料として年表が付けられておりますけれども、東京書籍と帝国書院、それから日本文教出版の3社のものは、本文の右側のページの多くに縄文から令和までの時代が縦に記載されておまして、今勉強している時代が歴史の中のどこに当たるのか一目で分かるような工夫がされております。

私としてはこの3社を候補にその中から一つを選びたいと考えまして、中身の比較をした結果といたしまして日本文教出版がよろしいかと思っております。日本文教出版の244ページと245ページには、「地域調べ」というページがございまして、第二次世界大戦のときの多摩地域のことが記載されております。お隣の東大和市にあります戦争遺跡で有名な旧日立航空機株式会社の変電所のことや空襲を受けた立川市のことなど、また、多摩地域にあった主な航空関連施設を紹介する地図には、本市にありました東京陸軍少年飛行兵学校の記載もございまして、東京陸軍少年飛行兵学校につきましては、その資料が歴史民俗資料館分館に収蔵されていることから、日本文教出版であれば、歴史的事実をより身近なものとして受け止めてもらえるのではないかと思った次第でございまして、以上のことから日本文教出版を推させていただきます。

以上でございます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 歴史から学び、問題解決力を育てるためには、問題が分かりやすいほうがよいと思います。その点で、全ての教科書が分かりやすいと思いました。

また、歴史を学ぶに当たって、いつ頃の出来事か関連づけて学ぶことができる各ページの

年表は、子供の理解を助けてくれると思います。先ほど大野職務代理者からお話がありましたけれども、その年表が東京書籍、帝国書院、日本文教出版は、右ページの右端、縦にありました。教育出版は、左ページ、中央の見出しの上に、育鵬社、自由社は、左ページの下にありました。私は右端、縦にある東京書籍、帝国書院と文教出版が見やすいように感じました。

資料、写真、地図、年表などの配置は、東京書籍、教育出版、帝国書院、自由社が分かりやすいと思いました。

帝国書院は、例えば鳥取藩の参勤交代など「地域史」なども表示され、深い理解につながると感じました。

また、最後のページの歴史年表には、日本の出来事、世界の出来事がまとめてありましたが、文化面が充実していたのは東京書籍で、新紙幣の北里柴三郎による「破傷風の血清療法の発見」も明記されていました。また、東京書籍は、年表の上段と下段の両方に世紀と西暦の表示があり、分かりやすいと思いました。

帝国書院は、日本と海外の交流をイラストで示されているので、関係を捉えやすいと思いました。

日本文教出版は、2025年の大阪での万国博覧会開催予定まで表記されていました。

それぞれよさがありますが、総合的に見て東京書籍または帝国書院がよろしいのではないかと思います。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私も東京書籍、帝国書院2社で悩んだところでございますけれども、帝国書院の脚注の詳しさ、これは知識の充実につながると感じました。また、こうした知識は他教科との関連を考えたときに、帝国書院がよいと思ったところがございます。

以上です。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 地理同様、非常に難しいと悩んでいるところではありますが、帝国書院、東京書籍、日本文教出版は、見開きページの右端に時代の区分ごとの色分けがされております。歴史上のどのあたりのことを学んでいるかがつかみやすくなっていると感じました。

また、歴史を学習する上で、日本史と世界史を同時進行的に学習していながらも、どうしてもそこにタイムラグが発生してしまうと思いますが、帝国書院、東京書籍、日本文教出版、教育出版は、日本と世界で起きた主な出来事を巻末の大きな年表でまとめられておりまして、

日本史と世界史の時代が縦軸でリンクするため、さきに述べたようなタイムラグを補正できるのではないかと思います。

そういった中で、見やすさ等々考えますと、帝国書院、東京書籍、日本文教出版のいずれかがよいと思います。

○池谷教育長 大野職務代理者からは日本文教出版、杉原委員からは東京書籍または帝国書院、比留間委員からは帝国書院、東京書籍、日本文教出版のいずれか、潮委員からは帝国書院との御意見をいただきました。3名が帝国書院ということですが、大野職務代理者、帝国書院ということによろしいでしょうか。

○大野職務代理者 結構でございます。

○池谷教育長 社会（歴史的分野）につきましては、3名の方から帝国書院という御意見がございましたので、帝国書院に決めさせていただきます。

次に、社会（公民的分野）に移ります。こちらは6社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 各社とも分かりやすくまとめられていますが、国会について、帝国書院は、「国会は、国民が選挙で選んだ国会議員から組織されているため、国民を代表する地位にあります。主権者である国民に近いことから、日本国憲法において国会は国権の最高機関とされています。」と分かりやすく説明されていて、理解しやすいと感じました。また、帝国書院は、写真や表、イラストの配置が分かりやすく、説明が明確で理解しやすいように思いました。

国際連合については、仕組みや役割、目的、はたらきなど、どの教科書もよく説明されていましたが、課題が述べられているのは、帝国書院と自由社でした。国際連合がもつ現代的な課題に触れ、日本との関係も述べられていて、未来に向けて視点を持つことができると思いました。

東京書籍は、「スキルアップ」の「円高・円安の影響について考えよう」で、具体的に計算して理解を深められるように配慮されているのがよいと思いました。

大変迷いましたが、総合的に見て、帝国書院がよいと思いました。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、よろしくお願いいたします。

○大野職務代理者 公民につきましては、各教科書とも公民とは何なのか、何を学ぶのか最初のところで示しておりますけれども、帝国書院の「公民的分野を学ぶ意義」という文章が非

常に端的にその必要性を述べているように思いました。また、内容を見ましても、分かりやすさだけでなく、「未来に向けて」というコラムと、それに続く「NEXT2030 へのヒント」といった関連情報が豊富に提供されております。

これらのことから、私としては、帝国書院がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 個人的な感想ですが、公民は社会科の集大成と言えるのではないかと思います。法的なこと、経済のこと、国際社会のことなど、中学生にとっては少々難しく感じる内容へ移行していくようにも感じます。ただ、人生経験を重ねて改めて公民の教科書を読んでもみますと、現代社会を生きていく上では非常に重要な学習内容も多い教科書だと思いました。その中で、各教科とも学習に興味を持てるように工夫されていると感じたところでもあります。

イラストや写真を多く掲載して学習内容が分かりやすいように工夫されており、こちらもどの教科書を選んだらよいかというところで難しいと思いますが、帝国書院は、章の始まりごとにイラストの中から学習する内容を探していくようなゲーム感覚を取り入れており、また、日本文教出版は、漫画やイラストを用いて学習内容に親近感を持てるようにしている点がよいと思いました。

帝国書院、もしくは日本文教出版がよいかと思います。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 歴史に続きまして、帝国書院か東京書籍で悩むところがございます。

成人年齢が18歳になったことで、最初の政治参加が近づきました。選挙の仕組みなどをしっかり学ぶという点では、東京書籍がよいと感じました。また、少子高齢化や年金など現実的な問題が分かりやすく、「みんなでチャレンジ」で話し合っただけで深めることができることもよいと感じました。

帝国書院も同様でございますが、「アクティブ公民」で生徒会投票から民主主義を考えるとという項目がございました。これは生徒の理解につながると感じたところがございます。

以上のことから、帝国書院か東京書籍いずれかがよいと思います。

○池谷教育長 潮委員からは帝国書院または東京書籍、比留間委員からは帝国書院または日本文教出版、大野職務代理者と杉原委員からは帝国書院との御意見をいただきました。4名が帝国書院ということですので、帝国書院ということよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、地図に移ります。こちらは2社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 2社ともにサイズや色使いなど大変似たつくりになっておりまして、迷ったところがございます。

北海道の200万分の1の地図に注目して見比べましたところ、帝国書院は、右下に日本とロシア、ソ連の国境の変遷について4つの時代を捉えて分かりやすく説明しているのが目につきました。また、同じページになりますけれども、北方領土の中の択捉島の隣に同じ縮尺の沖縄島を対比させるような形で載せております。これにより沖縄島よりも大きな択捉島というのが視覚で理解できるような大変気の利いたつくりになっていると思えました。

私としては、帝国書院がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 両社とも優れた読み物教材で学ぶことが多く、大変興味深く見せていただきました。また、縮尺、図法の名称が両社とも表示され、理解しやすいと感じました。

世界全図の日付変更線については、東京書籍は、ロンドンが1月1日0:00時のとき、日付変更線の東経、西経の境界線では、1月1日12:00、12月31日12:00と日付と時刻が明記されているのですぐに理解できて、さらに発展的に考えられるよさがあると思えました。

世界の国々について帝国書院は、色合いが見やすく、下の等時帯が大きくて分かりやすく、北極点、南極点から見た北半球、南半球も視覚的に捉えやすいと思えます。

また、SDGsの持続可能な社会について、帝国書院は「17のゴール」だけでなく、環境問題や食料問題などについても、写真、地図で視覚的に状況が理解できるように配慮されてとてもよいと思えました。

世界の気候については、両社とも世界各地の気温と降水量のグラフが示されていますが、東京書籍は、地中海性気候の例としてサンフランシスコが挙げられていました。深い学びにつながるのかもしれませんが、中学生は戸惑うように思いました。その点、帝国書院は、地中海性気候としてローマが例に挙げられていて、まさに地中海沿岸にある都市なので、理解しやすいと思えました。

また、関東地方の地図には、帝国書院は武蔵村山の大島紬が表示され、大きくて見やすく、

他県とのつながりも捉えやすいと感じました。

総合的に見て、帝国書院がよいように思いました。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 色合いについて、ただいま話題に出ておりましたけれども、私も帝国書院が優れていると感じました。

小学校の選定のときにも話題にいたしましたけれども、ただいま杉原委員からもございましたが、131 ページ、東京都の中に大島紬という記載がございます。やはり本市のことが掲載されているという点では、子供たちにも興味を示しやすいという点で、帝国書院がよいと思います。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 東京書籍、帝国書院、いずれの内容もよいかと思います。その中でどちらかといえば、帝国書院の方が色彩やかで見やすいと感じたところがございます。

また、自然災害や防災についての記載も豊富であり、私は帝国書院がよいと思います。

○池谷教育長 4名が帝国書院ということですので、帝国書院ということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、数学に移ります。こちらは7社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 「文字を使った式」は、数字の代わりに文字を使うことの便利さを実感できることが大切だと思います。そういう視点で考えますと、規則性を見つけやすく、概念を捉えやすい方が数学の苦手な子供にとっても理解しやすく望ましいと思います。

東京書籍、学校図書、日本文教出版の問題は分かりやすく、規則性を捉えやすいので、問題解決を通して文字のよさを理解しやすいと感じました。

啓林館は、章末問題の答えについて、二次元コードで、考え方、解答、解説動画を示されておりました。この解説動画が大変分かりやすい説明で、子供が自ら学べるように工夫されておりました。欠席やあるいは不登校の状態であっても非常に役に立つよさがあると感じました。

「文字式を使って説明しよう」の「多項式の計算」では、東京書籍のドミノの問題で「先にゴールするのはどのコース？」は、すばらしいと感じました。着想やひらめきを生かして計算した結果と動画で実際にドミノを倒した結果が同じになり、子供たちにとっては感動的

な問題解決になるだろうと思いました。こういう問題解決を通して、数学の好きな子供が増えとうれしいと思いました。

また、どの教科書にも補充問題には答えがついていて、すぐに確かめられるように配慮されていました。

東京書籍は、補充問題、基本の問題、クイックチェック、学びのベースがあり、いずれも答えのページが表示され、すぐに確かめられると思いました。

総合的に見て、東京書籍がよいと思いました。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 基本的には、まず中学1年生の数学で、正と負の数から学習が始まります。東京書籍は0章として、また、教育出版は第1章ということで、それぞれ小学生で学んだことの振り返りからスタートしております。小学生の算数から中学生の数学へ移行するに当たり、そのように振り返りの場面があるということで、非常に丁寧に構成されていると感じたところであります。

また、日本文教出版の巻末に「ふり返しシート」や「対話シート」というものがあり、これもよいアイデアだと思いました。

また、その他いずれの教科書も章ごとや単元ごとに、また、巻末での1年間の振り返りにより、学習内容の定着が図られるように構成されております。かつ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、学習の過程における疑問や考え方を話し合うようなイラストを入れているなど、非常に工夫されていると感じたところであります。

なかなか甲乙つけ難いところではありますが、構成の丁寧さという意味で、東京書籍がよろしいかと思えます。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 本市の生徒の課題である計算力、これについて小学校からの接続が円滑であるべきと考えますと、啓林館は1年生では使用している言葉がとても分かりやすいと感じました。例えば、教科書の初め、「除法」という言葉ではなく「割り算」という言葉を用いておりまして、段階的な学びが期待できると思いました。

また、数学には、大人になってやっと理解できるような単元もあると考えますけれども、その中では東京書籍は各単元の構成や説明が分かりやすいと感じました。

啓林館か東京書籍がよいと思えます。

○池谷教育長 大野職務代理人、よろしくお願いいたします。

○大野職務代理人 数学という教科は、様々な教科の中でも特に基礎・基本が大事だと思っております。当然のことですが、学年を重ねるごとに、より高度な学びに移っていきますけれども、基礎・基本が欠けていると途中でつまづいてしまうこともある、そういう科目だと思っております。そのことから、教科書を選ぶに当たっては、算数から数学へスムーズに移行できるように配慮されたもの、基礎・基本の習得に力点を置いているものがよいと思ひまして、そのような視点で見比べたところでございます。

その結果でございますが、東京書籍は、各単元の説明の後の例題や基本的問題が豊富で、丁寧につくられているように思ひますし、その後続く問題も難易度別に多数そろえられていることから、私としては東京書籍がよろしいかと思ひます。

○池谷教育長 潮委員からは東京書籍または啓林館、大野職務代理人、杉原委員、比留間委員からは東京書籍との御意見をいただきました。4名が東京書籍ということですので、数学は東京書籍ということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、理科に移ります。こちらは5社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、よろしくお願いいたします。

○大野職務代理人 どの教科書もイラストや写真を使いまして分かりやすく、また、いかに子供たちに理科に興味を持ってもらうかという思いが伝わってくるようで、なかなか優劣つけられなかったところです。私なりの一つの選定基準といいますか、理科の場合、実験などもあり、器具の使い方を誤るとけがをする恐れもあります。当然、各社とも器具や薬品の扱い方の説明をしていますけれども、その中で分かりやすく記載されていると思ひましたのが、東京書籍と大日本図書の2社でございます。2社ともに各単元のところで注意することに触れているほか、巻末の部分で理科室の使い方や薬品の扱い方などについてまとめ、それも分かりやすく説明をしております。

一方、残念なことに大日本図書は5社の中で1社だけB5判でございまして、A4判を見慣れた目には小さく感じられるところでして、この見やすさという点も考慮いたしまして、私としては東京書籍がよろしいのではないかと思ひております。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 どの教科書も問題解決の過程を重視して展開されていると感じました。課題をつかみ、観察や実験を通して、結果を基に考えを深めていく工夫がされていました。

地球と宇宙では、どの教科書も既習事項、これから学習することを分かりやすくまとめてありましたが、大日本図書は、「日陰は日光を遮るとできる」、「月の輝いている側に太陽がある」と子供の視点から疑問を取り上げて既習事項をまとめられていました。小学校で学んだことを分かりやすくまとめられ、思い出しながら学習できると思いました。また、太陽光と地球の1日の写真や図、説明が明確で分かりやすく、理解が深まると感じました。

太陽系の天体では、学校図書は、「太陽、8つの惑星と月の表面」の写真が載り、質量、自転の周期、衛星の数などが一覧表にまとめられていて、子供たちにとっても大変興味深くて学びが深まると感じました。

地震の単元では、マグニチュードについては、どの教科書も「地震の規模」という説明がされていて、子供たちに分かりやすいように感じました。その中で大日本図書は、「1つの地震でも場所ごとに揺れ方が異なるので、地震の規模の大きさを震度で表すことはできない。そこで地震そのものの規模を示す指標として、地震が起こったときに放出されたエネルギーの大きさに対応するマグニチュードが使われる。」という説明が一番明確で、必要性も理解できると感じました。

「植物の仲間」では、課題はどの教科書も工夫されていましたが、大日本図書の「いろいろな形をした花にも共通するつくりはあるのだろうか」という問題が明確で、写真が比較しやすく、図や説明が分かりやすいと思いました。

総合的に見て、大日本図書がよいと思いました。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 先ほど大野委員からもありましたが、理科は実験を伴う教科であり、小学生の頃に比べると危険度も増すと思います。その中で、教育出版、東京書籍、大日本図書では、1年生の教科書の巻頭において、「理科室の決まり」などのタイトルで安全な実験を行うための注意事項や応急処置について掲載されております。教育出版にあっては、その後の2年生、3年生でも、そういった内容が巻頭に掲載されておりました。他の教科書でも実験を行う段階や巻末で掲載されておりますが、危険な道具や薬品を取り扱う理科の実験では、巻頭の目立つところに掲載されているのは非常によいと思いました。

また、学習の中で実験や観察などが多い科目なので、写真やイラストによる解説も重要か

とっております。

そのような視点からしますと、東京書籍がとても見やすく、学習のイメージがつかみやすいように感じたところであります。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 東京書籍か教育出版で迷ったところでございます。

両社ともまとめ方、議論の仕方など明確に表しておりました。その中で東京書籍は、「社会につながる化学」として各単元に発展的な知識や将来の仕事につながる話が盛り込まれておりまして、子供たちが理科という教科を学ぶ必要性を身近に感じられ、好感が持てる場所だったと思います。

以上のことから、東京書籍がよいと思います。

○池谷教育長 杉原委員からは大日本図書、大野職務代理者、比留間委員、潮委員からは東京書籍との御意見をいただきました。3名が東京書籍ということですので、杉原委員、東京書籍ということによろしいでしょうか。

○杉原委員 結構でございます。

○池谷教育長 理科につきましては、3名の方から東京書籍という御意見がございましたので、東京書籍に決めさせていただきます。

次に、音楽（一般）に移ります。こちらは2社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○潮委員 教育芸術社がよいと思いました。中学校で教科書を使うというのは、鑑賞がメインなのではないかと思って見たところでございます。教育芸術社は見出しが大きく見やすいと思いました。また、中学校では期末考査のときなど自主学習することが入ってくると思いますが、そのときに二次元コードの活用ができると感じたところでございます。

以上のことから、教育芸術社がよいと思えます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、よろしくお願いいたします。

○杉原委員 どちらの教科書も学習内容、歌唱について、知識・技能、思考・判断、表現力の視点で曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫するように説明されていました。

歌舞伎の「勸進帳」では、教育出版は、成田屋の十八番でもありますので、弁慶に十二代目市川團十郎の「飛び六方」が紹介されるなど、ストーリーもよく分かり、素晴らしいと思

いました。

また、「指揮をしてみよう」では、教育出版は、少し手の動きが分かりにくいと感じましたが、教育芸術社は、山田和樹さんの説明が分かりやすく、手の動き、拍子の動きと速さ、強さのポイントも分かりやすいと感じました。音色、旋律、テクスチャ、強弱など注目するポイントも理解しやすいと思いました。

歌唱「帰れソレントへ」は、教育芸術社は、オレンジの木の写真や地図でソレントの場所が分かり、「短調、長調の違いを感じ取り、速度や強弱に気をつけながら曲にふさわしい表現を工夫して歌いましょう」と具体的にポイントが示されていました。また、教育出版の「こいになげくこのむねにぞしむよ」、「われをすつるな」という訳詞よりも、教育芸術社の芙龍明子さんの訳詞の方が情景や気持ちがしみじみと伝わり、中学生の子供にとっても自然に歌えると思いました。

どちらかを選ぶとするならば、教育芸術社の方が本市の子供には合っていると思いました。

○池谷教育長 大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 音楽につきましては、日本や世界に様々な音楽があるのだということで、多種多様な音楽が紹介されています。それぞれ知識として理解してほしいところというところが大きいと思います。一方で、音楽の楽しさを子供たちに持ってもらうのも大切なことだと思いますが、両社とも掲載している曲の選定にも苦勞の跡が見えるように思いました。

そんな中で、教育芸術社が「歌い継ごう 日本の歌」と銘打って掲載している曲、1年生では「涙そうそう」、2、3年の上では「やさしさに包まれたなら」、2、3年の下では「花は咲く」などですが、いずれも今の子供たちにも十分楽しんでもらえる曲ではないかと思います。まさに歌い継いでほしい歌だと思ひまして、私としては教育芸術社がよろしいかと思ひます。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 2社とも掲載されている楽曲や内容については、それほど差はないと感じたところがございます。そのような中で、教育芸術社の方が二次元コードを多用しており、ほとんどの楽曲において非常にイメージがつかみやすいように感じたところがございます。

いずれかというところで、教育芸術社がよいと思ひます。

○池谷教育長 4名が教育芸術社ということですので、教育芸術社ということによろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、音楽（器楽合奏）に移ります。こちらでも2社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 正直なところなかなか優劣はつけられないと思ったところです。とは言いましても1社を選ばなければということで、いろいろと見比べまして、両社ともリコーダーやギター、太鼓など、その単元の最初のところで楽器の持ち方や正しい姿勢について説明しておりますが、教育芸術社のリコーダーの姿勢と構え方のところに、「美しい音はよい姿勢から」という言葉が出てきます。これは決してリコーダーに限ったものではなく、全ての楽器演奏に通じる言葉ではないかと思いました。このことも含めて総合的に見まして、教育芸術社がよろしいかと思えます。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 今お話がありましたように、両社とも工夫されていて、魅力的な教科書になっていると思えました。

リコーダーについては、教育芸術社は、アルトリコーダーとソプラノリコーダーの音域が示してあり、タンギングの図と説明、音の響かせ方、美しい音はよい姿勢からという説明も分かりやすいと思えました。

ギターについては、教育芸術社は、クラシックギター、フォークギター、エレキギターを取り上げ、ギターの様々な演奏の様子を写真で表示され、分かりやすく、その上でクラシックギターの各部の名称、チューニング、姿勢と構え方、左手右手の押さえ方があり、分かりやすく、様々な奏法の指使いが理解しやすいと思えました。

教育芸術社は扱っている楽器が8種類で、打楽器は多数紹介されているので、楽器が不得手な子供にもなじみやすく、音楽を楽しめる活躍の場が広がると思えました。

教育芸術社の方が本市の子供にはよいように思いました。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 私も結論から申し上げますと、教育芸術社がよいと思えます。

内容や構成はどちらも同様かと思いますが、理解しやすく学びが深まるという点からも、音楽（一般）と合わせるのがよいと考えております。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 まず、教育芸術社ですが、先ほど杉原委員からもございましたけれども、楽器が大

変多く掲載されておりまして、加えて写真や図の使い方が工夫されていて、非常に分かりやすいと感じました。一方、リコーダーの指導を考えますと、特化しているのは教育出版と感じたところがございます。

リコーダーを吹きながら楽しく教えられる構成になっていると思いましたので、教育芸術社、教育出版、悩んだところではございますが、総合的に見まして教育芸術社がよいと思います。

○池谷教育長 4名が教育芸術社ということですので、音楽（器楽合奏）は教育芸術社ということでもよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○池谷教育長 ここで暫時休憩といたします。

次は、午後1時から再開いたします。

午前 11時54分休憩

午後 1時00分再開

○池谷教育長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

日程第2、議案第39号の議事を継続いたします。

次に、美術に移ります。こちらは3社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 光村図書出版は資料が別冊になっているので、取り出してポイントを学べるよさがあると思いました。

日本文教出版は、3分冊になっているので、1分冊が薄くて持ちやすいと思いました。

風神雷神図屏風など日本の伝統文化の扱いについては、光村図書出版は、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一の描いた屏風を比較して違いやよさを感じ取れるようになっていました。

日本文教出版は、俵屋宗達の風神雷神図屏風のほか、狩野永徳の唐獅子図屏風が取り上げられていました。

開隆堂出版は、「江戸の美術の面白さを味わう」という視点から、俵屋宗達の風神雷神図屏風、伊藤若沖の樹花鳥獣図屏風、曲亭馬琴の南総里見八犬伝など数多く取り上げられ、江戸のユーモアを感じ、豊かでおおらかな質の高い日本文化に感動しながら楽しめる工夫がされていると思いました。また、学びの資料を見ると、開隆堂出版は展開が分かりやすく、自然で面白さを味わえると感じました。

どちらの教科書もよく工夫され、色合いもすばらしいと思いましたが、私は開隆堂出版が楽しみながら学べるように感じました。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○潮委員 まず開隆堂出版は、表紙の工夫がよくできていると感じました。アニメーションの表現では、漫画「ブルーロック」を資料としておりまして、今流行りのものというのは生徒の興味を引くものだと思います。また、東京オリンピックでも話題になりましたけれども、多くのピクトグラムの説明がされていて、今年もオリンピックの年でありますので、とてもタイムリーだと思ったところです。

また、光村図書出版ですが、こちらにも漫画「僕のヒーローアカデミア」や「ハイキュー！！」など人気のある作品を資料としている点や日本の文化の鳥獣戯画等は紙質を変えてありまして、非常に面白い工夫がされていると思いました。

私は、開隆堂出版または光村図書出版がよいと思います。

○池谷教育長 大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 美術につきましては、全ての教科書が載せておりますピカソの「ゲルニカ」に注目して見た結果といたしまして、私としては光村図書出版がよいのではないかと考えております。

光村図書出版の場合、どこよりも大きな見開き4ページに「ゲルニカ」を掲載し、またその後のページには、「ゲルニカを見る少年」という写真作品もありまして、平和への強いメッセージを感じたところがございます。

世界に目を転じますと、今また様々なところで惨劇が繰り返されていますけれども、子供たちにも「ゲルニカを見る少年」のゲルニカの前に一人でたたずむ少年と同じような目線でこの作品を見てもらいたいと思ったところがございます。

このような思いから光村図書出版を推させていただきます。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 私は開隆堂出版と日本文教出版がよいと思いました。

開隆堂出版は、表紙に凹凸を施すなど非常に工夫されていて面白いと思いました。

また、開隆堂出版と日本文教出版は、單元ごとに二次元コードで学習のポイントが見られて理解がしやすいと思いました。加えて日本文教出版は、ほとんどの單元が見開きの状態で構成されていて、とても扱いがよいと思いました。教科書づくりにおいて学習する子供たち

に対する配慮というのが感じられたところであります。

少々美術から離れてしまいますが、ほんの些細で分かりづらいことかもしれませんが、そういった配慮のようなものは人間形成において非常に大事なことかと思えます。ぜひ武蔵村山市の子供たちの成長においても、そういったところは身に付けていただきたいと思う一つのことです。

○池谷教育長 大野職務代理人からは光村図書出版、杉原委員からは開隆堂出版、比留間委員からは開隆堂出版または日本文教出版、潮委員からは開隆堂出版または光村図書出版との御意見をいただきました。3名が開隆堂出版ということですので、大野職務代理人、開隆堂出版ということによろしいでしょうか。

○大野職務代理人 結構でございます。

○池谷教育長 美術につきましては、3名の方から開隆堂出版という御意見がございましたので、開隆堂出版に決めさせていただきます。

次に、保健体育に移ります。こちらは4社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

潮委員、お願いいたします。

○潮委員 大日本図書は説明が非常に分かりやすく、教科書の中で太字の使い方というのが子供たちの理解につながると思いました。中学校では定期考査がありますので、テストで重要な点が覚えやすいほうがよいと感じました。

大修館書店も資料の使い方は分かりやすく、自主学習に生かせると感じました。

大修館書店と大日本図書2社で悩むところでございます。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 保健体育につきましては、各社とも各章、単元ごとにそこで何を学ぶのかを示した上で、基本的事項を説明し、その学んだ知識を基に課題について考えてもらうというつくりをしていますけれども、全体を通して東京書籍と大修館書店のものが見やすく読みやすいと感じました。

そこで、この2社について見比べてみましたが、東京書籍が巻末に「巻末スキルブック」という健康や安全に関する20のスキルを載せておりまして、心肺蘇生法やAEDの使い方、熱中症の応急手当などについて具体的な説明がされているなど大変実践的な資料になって

おります。本文の中でも触れていることではございますが、これはというものを巻末に再度資料として載せるという大変丁寧なつくりをしていると思いました。

これらのことから、東京書籍がよろしいかと思えます。

以上です。

○池谷教育長 杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 感染症の単元では、感染症の病原体と主な症状について、どの教科書も表にまとめられていましたが、大日本図書と大修館書店は病原体の写真もあって分かりやすく、大修館書店は9種類と一番多くの感染症の例を挙げ、理解が深まると思いました。この感染症の単元を東京書籍は、端的に分かりやすくまとめてありました。大日本図書は、知識を吸収しやすいと思いました。学研は疑問や課題を把握しやすいと感じました。大修館書店は、専門的な知識を分かりやすくまとめてあり、問題意識を持ちやすく、予防への意欲も湧くと感じました。

薬物乱用については、新聞記事に中高生がSNSで薬物を入手して、薬物汚染が拡大していて危険なこと、しかも「アイス」や「チョコ」などの隠語を並べて希望者を募り、公園などで入手できやすいような状況になっていることが載っていました。子供たちが知らないうちに犯罪に巻き込まれないようにするためには、正しい知識を信頼できる人から学ぶことが大切だと思います。そういう点で、隠語について大修館書店は15種類、東京書籍は10種類載せてあり、詳しいと感じました。また、薬物乱用による悪影響について大修館書店の図や流れは分かりやすく、危険度が一目瞭然だと思いました。

心身の発達については、どの教科書も異性の理解と尊重の大切さを強調されていましたが、その中で東京書籍がよいように感じました。中学生の時期は体の変化に戸惑い、悩むこともあります。興味本位にならないように配慮しながら、信頼できる人から教えられることが大切だと考えます。教育的に配慮しながら、生命の神秘、奇跡にも触れ、展開されているのは東京書籍のように感じました。

迷いましたが、東京書籍または大修館書店がよいように思います。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 どの教科書も基本的に単元ごとに見開きの状態でまとめられておりまして、とてもよく構成されていると感じたところです。

また、各社言い方は違いますが、学習課題の導入、課題の解決方法、学習内容のまとめや振り返りについて単元ごとに構成されており、工夫されていると感じたところです。

それぞれ章ごとの学習の振り返りや巻末の資料など、または学ぶタイミングに内容を充実させるなど個性もある中で、どれを選ぶのかといいますと、私は大修館書店がよいと思いました。例えばこの授業で何を学ぶのか課題が明確であり、様々な資料から知識を得ることができるのではないかと思います。

○池谷教育長 潮委員からは大修館書店または大日本図書、大野職務代理者からは東京書籍、杉原委員からは東京書籍または大修館書店、比留間委員からは大修館書店との御意見をいただきました。3名が大修館書店ということですので、大野職務代理者、大修館書店ということによろしいでしょうか。

○大野職務代理者 結構でございます。

○池谷教育長 保健体育につきましては、3名の方から大修館書店という御意見がございましたので、大修館書店に決めさせていただきます。

次に、技術・家庭（技術分野）に移ります。こちらは3社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 技術では、コンピュータや情報についての学習があります。日常的にSNSなどに起因する事件や事故の報道に接することが多いことから、子供たちには、早い段階で情報化社会の便利さと怖さ、気をつけるべきところなどをぜひ身に付けてほしいとの思いから、この点を重視して各社の教科書を見比べたところでございます。

そして、その結果でございますが、東京書籍の情報モラルのところを見ますと、情報検索、情報発信、情報サービスの便利なところと、そこに潜んでいる危険性など注意すべき点が非常に分かりやすく書かれていると感じました。

これらのことから、私としましては、東京書籍がよろしいかと考えております。

以上です。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 技術では、工具をはじめ様々な器具を使用する場面が多いと思います。また、けがなどの危険も想定されます。どの教科書も巻頭やそれぞれの学習などの内容に応じて、そのとき使う工具など注意点や危険性について書かれておりますが、東京書籍は、巻頭の二次元コードにより動画などを用いて、そこが丁寧に解説されております。

また、教育図書は、それぞれの学習のタイミングで比較的目立つように丁寧にそういったことが書かれていると感じたところであります。

東京書籍と教育図書いずれかで迷うところですが、その2社がよろしいかと思えます。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私は東京書籍がよいと思えます。全体的に説明が細かく示されておりまして、文章が分かりやすく書かれていると感じました。例えば授業を欠席してしまうことや、授業の中で先生の説明が理解できなかったということがあったとしても、教科書を読めば理解が十分にできるつくりになっていると感じました。

○池谷教育長 杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 「生物育成の技術」については、東京書籍は学習課題が明確で、気象環境、土壌環境、生物環境による技術が分かりやすいと感じました。

教育図書は、「めあて」で2つの技術を知ることなどを示し、学ぶ内容と資料やポイントの図から理解しやすいと感じました。

開隆堂出版は、「願いと要求」という視点から作物の成長の環境要因に着目して技術を活用していくという展開が分かりやすいと思いました。

教育図書は、「スキルアシスト」が別冊になっていて、要点をコンパクトにまとめられているので、理解しやすいと感じました。

エネルギー変換の技術では、様々な発電方法と特徴が各社ともまとめられていましたが、プラス面、マイナス面の他に発電効率、発電量の調整、発電所の例などが分かりやすくまとめられているのは、開隆堂出版と東京書籍だと感じました。

大変迷いましたが、東京書籍または開隆堂出版がよいと思えます。

○池谷教育長 大野職務代理者からは東京書籍、比留間委員からは東京書籍または教育図書、潮委員からは東京書籍、杉原委員からは東京書籍または開隆堂出版との御意見をいただきました。4名が東京書籍ということですので、技術・家庭（技術分野）は東京書籍ということによろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○池谷教育長 次に、技術・家庭（家庭分野）に移ります。こちらは3社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 私は開隆堂出版がよいと思いました。

生姜焼きは、流れやポイントが見やすく、手順が左から右に書かれていて、写真、見出しが端的で表現が理解しやすいと思いました。

「洗濯機で洗濯してみよう」は、開隆堂出版は洗剤のはたらき、洗剤の種類と特徴などがイントが明確で、配置が分かりやすく、字の大きさも工夫されていて見やすいと感じました。

開隆堂出版の目次は、全体の構成が捉えやすいとも感じました。「調理実習例」、「製作実習例」、「生活の課題と実践」、「世界に視野を広げて」が下に表示されていて、目次を見ればどこに何があるか一目瞭然につかむことができるので便利だと思いました。そのような点から開隆堂出版がよいと思いました。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 私も開隆堂出版がよいと思いました。ただいま杉原委員からもございましたが、洗濯の方法ですとか食生活について非常に細かく掲載されてありまして、生活に必要な事項の理解がしやすいと感じました。調理事例もたくさん掲載されてありました。1日の食事摂取量というのは、非常に分かりやすいと思ったところがございます。

また、キャッシュレス化のメリットやデメリットなど、日常的になったものの中で、親でも説明をしにくいところがしっかりまとめられているのがよいと思いました。

○池谷教育長 大野職務代理人、お願いいたします。

○大野職務代理人 家庭分野では、消費生活について学習いたしますけれども、近年、インターネットを利用した通販の普及などますます便利になる一方で、様々なトラブルも発生しております。中学生にはぜひこの段階で消費者として必要な基本的な知識を持ってもらいたいと思ひまして、その部分に重点を置いて各社見比べてみたところです。

その結果でございますが、まず商品の販売方法や代金の支払い方法にはたくさんの種類があるということ、私自身大変勉強になりました。例えばクレジットカードについては、要は後払いの一つということで、3社とも概略の説明がされておりますけれども、その中で教育図書でございますが、これにプラスしまして、「クレジットカードの仕組みを知ろう」というコーナーに2ページを費やし、クレジットカードとは何か、その長所と短所、利用するときの注意すべき点などについても触れております。その他クーリングオフをする場合の通知書の例を載せていたりしまして、大変実践的なつくりをしていると思ひましたので、私としては、教育図書がよろしいかと思ひます。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 家庭分野の教科書を見させていただいて、ついおいしそうな調理実習のページに目が行ってしまうところですが、調理の工程が縦方向に書かれているもの、横方向に書かれているものがあります。これについては好みもあるかと思ひますし、いずれも写真と説明

文の配置など工夫されていて、どちらもよいと思いました。

全体を通して見てみますと、結局のところ、好みになってしまいますが、私は開隆堂出版が写真やイラストの内容、また、それらの配置などがよく、学習内容や実習のイメージがしやすいと感じたところです。

○池谷教育長 大野職務代理者からは教育図書、杉原委員、潮委員、比留間委員からは開隆堂出版との御意見をいただきました。3名が開隆堂出版ということですので、大野職務代理者、開隆堂出版ということによろしいでしょうか。

○大野職務代理者 結構でございます。

○池谷教育長 技術・家庭（家庭分野）につきましては、3名の方から開隆堂出版という御意見がございましたので、開隆堂出版に決めさせていただきます。

次に、英語に移ります。こちらは6社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 最初に気になりましたのが、教科書の大きさでございまして、6社のうち4社がA4判、残りの2社がA5判を採用しておりまして、日頃A4判を見慣れた目にはA4判のものが見やすいように感じました。

A4判の4社から絞り込んでいこうということで見比べてみましたが、東京書籍と開隆堂出版の2社が1年生の最初のところで、小学校の学習をおさらいするような作りをしております。東京書籍は小学校の振り返り「Nice to meet you」、開隆堂出版は「小学校でできるようになったことを確認しよう」ですが、小学校の学びを生かしてスムーズに中学校の学習に移行させようという意図が感じられることから、この2社から選びたいと思ったところです。

そう考えますと、教科書全体の作りを含めまして、小学校のときからなじみのある東京書籍がよいのではないかと思ったところでございます。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 どの教科書もよく工夫されていて分かりやすく、二次元コードによる音声の再生の仕方も工夫されていて、速さの違いや巻き舌による口調の違いはあるものの、発音は大体どれも聞き取りやすいように感じました。どの教科書もよいので選び難く思いました。

そこで、Let's Read や Reading 教材に着目してみました。ごんぎつね、ピーターラビットのお話、アリスとハンプティ・ダンプティ、中村哲先生のこと、オズの魔法使いなど、面白く、楽しめる、ためになるお話が多岐にわたっていましたが、英語によるお話の朗読は、話しかけるような読み方から、抑揚、アクセント、発音、速さなど学べることが多いとてもよい教材だと感じました。その中で、発音、音声の抑揚が明確でゆっくりで聞き取りやすく、英語が苦手な生徒も真似しやすいと思ったのが東京書籍でした。

東京書籍は、Key Sentence の解説動画で聞く音声も分かりやすく、一人でも学べるよさがあると思いました。また、レストラン、道案内、病院、機内放送、買物など実際そっくりのシチュエーションで学べるようになっていて、音声も大変聞き取りやすいと感じました。どちらかといえば東京書籍がよいように思いました。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 どうしても高校受験を控える中学生の英語学習というのは、文法や書き取りも重要ではありますが、社会に出ますと英語を聞き取ることや話すことも大事であると思います。いずれの教科書も身近にありそうなシチュエーションを想定して、そこでの会話をベースに様々な学習へとつなげられており、英語が身近に感じられ、学びやすさを感じました。

そのような視点で見たところ、光村図書出版は單元ごとのタイトルがシンプルで、これから学ぶ内容が分かりやすいように思いました。また、同様の視点で三省堂もよいと思ったところです。

○池谷教育長 潮委員、お願いいたします。

○潮委員 各社の教科書を開いて見させていただきました。その中で東京書籍と三省堂は、本市の子供たちにとって少し英文量が多いと感じたところがございます。

英語は小学校から学んでおりまして、段階的に学習内容が上がっていくといいましても、本市の児童・生徒の学力の実情に合ったものがよいと考えております。その中で、光村図書出版は現実的な題材を扱っており、短いセンテンスで構成されていました。1年生の入学式から始まり、3年生では合唱コンクールまでを題材として扱っているので、本市の中学校の行事とも合っていて、理解につながると感じました。

また、開隆堂出版は、各プログラム内でその単元で習った文法を使って発表メモを作って発表をさせていく、そんな中で段階的にスピーチ力を上げるという工夫が大変よいと感じました。

以上です。

○池谷教育長 大野職務代理者、杉原委員からは東京書籍、潮委員からは開隆堂出版または光村図書出版、比留間委員からは三省堂または光村図書出版との御意見をいただきました。意見が分かれてしまいましたので、私の意見を入れさせていただき、決定させていただくということで、よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 私は結論から言うと、光村図書出版がよいのではないかと考えました。まず、文章量が本市の生徒の実態に合っているのではないかとということが一つ、また、二次元コードを用いて聞き取る場合に、速さや聞きやすさというのもよかったと思います。

次に、内容につきまして、先ほど潮委員がおっしゃったように、合唱コンクールを題材として取り扱っていること、やはり本市の行事にあって、子供たちの理解もより深まるのではないかとこの考えもありまして、この光村図書出版がよいのではないかと考えさせていただきました。

私を含めて3名が光村図書出版ということですので、英語は光村図書出版ということでもよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 次に、道徳に移ります。こちらは7社でございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

大野職務代理者、お願いいたします。

○大野職務代理者 道徳という教科は、基本的にテーマとなるお話を提示して、子供たちに考えてもらうという形で進められると思いますが、掲載されているお話に関しては、各社ともよく考えられていると思ったところでございます。

その中で、このお話はよいと思いましたが「バスと赤ちゃん」というお話でございます。満員のバスの中で泣き叫ぶ赤ちゃんとその母親、大勢の乗客と運転士のお話ですが、人の優しさと思いやりにあふれた作品です。そして、この「バスと赤ちゃん」を1年生最初のところに掲載しているのが学研とあかつき教育図書の2社でございます。道徳ではこれからの3年間、様々なトラブルや心が重くなってしまうようなお話を基に、人としてどう対応したらよいのか考えていくこととなりますけれども、その根底には思いやりが必要になると思います。そう考えたとき、この「バスと赤ちゃん」を1年生最初のところに持ってきた意図と申しますか、「人間ってすばらしいんだよ」、「さあ、道徳の学習を始めよう」と言っているように思いました。

このことから、私としては学研かあかつき教育図書のどちらかがよいと思ひまして、2社を比較したところ、あかつき教育図書がその特徴として、お話とその後の子供たちへの問いかけを主体に非常にシンプルなつくりをしているのに対し、学研は同じく主体としているところは同じですが、ところどころに関連情報などのページを豊富に挟んでいます。子供たちにとってどちらがよいのか考えたところでございますが、関連情報のページが豊富な学研が子供たちから興味を持って見てもらえるのではないかと思つたところでございます。

私としては、学研がよろしいのではないかと思ひます。

以上です。

○池谷教育長 その他、委員の皆様、いかがでしょうか。

杉原委員、お願いいたします。

○杉原委員 どの教科書も身近な出来事を想起して関連づけて考えを深める工夫がされていると思ひました。

先日、新聞記事に、ある女性実業家が父親の海外勤務に連れられて海外の日本人学校に入ったところ、いじめを受けたということがあつたようです。けれども、両親には知られなかつたので、平静を装っていました、毎日が孤独でしたという記事を読みました。そのことから、いじめの教材に注目して見てみました。いじめは非常に難しい問題をはらんでいて、社会全体で取り組まなければなかなか解決できないものだと思ひています。

いじめの状況については、出来事から考えを深めると同時に、いじめの構造について学んでおくことが、状況を客観視して批判的に捉えられるので大切だと思ひます。いじめの構造について扱っていたのは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、あかつき教育図書でした。

いじめの構造を知ることや客観的にものが言える力を育むためには、日常を構造的にみんなで討論し合えるようになることが大事だと思ひます。その点で、東京書籍の「わたしのせいじゃない」は、様々な立場からアプローチできるよい教材だと感じました。また、光村図書出版の「まなびをプラス」の「いじり」なども日常の中の出来事を学べるよい教材だと思ひました。

大変選び難いのですが、どちらかといえば、東京書籍または光村図書出版がよいのではないかと思ひました。

○池谷教育長 比留間委員、お願いいたします。

○比留間委員 どの教科書も掲載されている内容に大きな差はなく、それぞれ巻頭における学

習の進め方や巻末の資料など工夫されていると思います。また、学年が進むごとに学ぶ内容が複雑になっており、私自身も改めて考えさせられる内容が多く掲載されておりました。どの教科書も掲載されている内容という点ではとてもよいと思います。

その中で少々気になった部分ですが、単元の始まりが見開きのページの右から始まるもの、またそれが特に定まっていないものなどあり、個人的には見開きのページの右側から始まるものが見やすく使いやすいと感じたところでもあります。教科書全体の構成、学習の導入部分での分かりやすさという視点では、光村図書出版が幾つかの単元をユニットとして学ぶ内容ごとに順番にまとめられておりました、目次の部分でも学習する内容というのがつかみやすいと思いました。

また、昨年、小学校の教科書採択でも同様のことを申しましたが、巻頭に示されている「道徳で学ぶ22のキーワード」と「道徳道案内」というのは、道徳で学ぶ内容が明確に分かりやすく表現されており、よいのではないかと思ったところです。

○池谷教育長 ありがとうございます。

では、潮委員はいかがでしょう。お願いいたします。

○潮委員 私は学研がよいと思います。命につながる題材が多く取り上げられておりました、どれも心を打つものでございました。病気や事故、障害など、誰がいつ直面してもおかしくない身近な教材を扱っていたと思います。学研の教科書は様々な考えが生き方につながるのではないかと感じました。

以上です。

○池谷教育長 大野職務代理者、潮委員からは学研、杉原委員からは東京書籍または光村図書出版、比留間委員からは光村図書出版との御意見をいただきました。意見が分かれてしまいましたので、私の意見を入れさせていただき、決定させていただくということで、よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 結論から言いますと、光村図書出版がよいのではないかと考えました。その理由としましては、光村図書出版には小学校で扱った教材が載っていることが一番大きく、特に中学校で道徳を学ぶときは、小学校のときに感じたことがどのように変容していくかというのも一つ大切になります。それを感じ取ってほしいということもございますし、昨年度の小学校の教科書採択でも光村図書出版を採択していることもあり、本市の小中一貫の取組として大切にしていきたいと思っていますので、指導の系統性としても大切になるのではない

かと思いました。

また、表紙についても、今を生きる子供たちに合っているのではないかと考えながら、学習を学ぶに当たり、その入り口として手に取る教科書の質感も大切ではないかと考えまして、光村図書出版がよいのではないかと考えました。

私を含めて3名が光村図書出版ということですので、道徳は光村図書出版ということによってよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 以上で、国語から道徳までの16の種目について、委員の皆様の御意見を伺いました。いただきました御意見に従いまして、議案の別紙を作成いたします。

ここで議案別紙作成のため、暫時休憩いたします。

次は、午後2時から再開いたします。

ありがとうございました。

午後 1時44分休憩

午後 2時00分再開

○池谷教育長 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第2、議案第39号の議事を継続いたします。

議案別紙について、教育総務課長より朗読いたさせます。

佐藤教育総務課長、お願いします。

○佐藤教育総務課長 それでは、朗読いたします。

別紙、選定図書、武蔵村山市立中学校令和7年度使用教科用図書。

種目、発行者、書名の順で朗読いたします。

国語、光村図書出版、「国語」。

書写、東京書籍、「新編 新しい書写」。

社会（地理的分野）、帝国書院、「社会科 中学生の地理」。

社会（歴史的分野）、帝国書院、「社会科 中学生の歴史」。

社会（公民的分野）、帝国書院、「社会科 中学生の公民」。

地図、帝国書院、「中学校社会科地図」。

数学、東京書籍、「新編 新しい数学」。

理科、東京書籍、「新編 新しい科学」。

音楽（一般）、教育芸術社、「中学生の音楽」。

音楽（器楽合奏）、教育芸術社、「中学生の器楽」。

美術、開隆堂出版、「美術」。

保健体育、大修館書店、「最新 中学校保健体育」。

技術・家庭（技術分野）、東京書籍、「新編 新しい技術・家庭 技術分野」。

技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版、「技術・家庭 家庭分野」。

英語、光村図書出版、「Here We Go! ENGLISH COURSE」。

道徳、光村図書出版、「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」。

以上でございます。

○池谷教育長 これより質疑に入ります。

委員の皆様、いかがでしょうか。

（発言する者なし）

○池谷教育長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。

（発言する者なし）

○池谷教育長 討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これより議案第 39 号 武蔵村山市立中学校令和 7 年度使用教科用図書の採択についてを採決いたします。

武蔵村山市立中学校令和 7 年度使用教科用図書については、別紙のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○池谷教育長 挙手全員であります。

よって、武蔵村山市立中学校令和 7 年度使用教科用図書については、別紙のとおり決しました。

◎日程第 3 議案第 40 号 武蔵村山市立小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書の採択について

○池谷教育長 日程第 3、議案第 40 号 武蔵村山市立小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書の採択についてを議題といたします。

議案の朗読は省略させていただきます。

議案第 40 号の提案理由を説明させていただきます。

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条の規定により、小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書を採択する必要があるため、本案を提出するものでございます。

なお、内容につきましては、加藤指導・教育センター担当課長から説明をいたさせますので、よろしく御審議の上、御決定を賜りたくお願い申し上げます。

加藤指導・教育センター担当課長、お願いします。

○加藤指導・教育センター担当課長 それでは、議案第 40 号 武蔵村山市立小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書の採択について御説明いたします。

学校教育法第 34 条第 1 項に、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」と定められています。

このことに関して、特別支援学級で使用する教科用図書については、同法の附則第 9 条において、第 34 条第 1 項に規定する教科用図書以外の教科用図書を使用することができると定められております。これを踏まえ、資料 2、教科書採択資料作成委員会報告書、特別支援学級用に示されております図書が、採択の対象となる教科用図書となります。

別紙、武蔵村山市立小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書は、この報告書を一覧にしたものでございます。

それでは、別紙について御説明いたします。

生活は 6 社から 10 冊、国語は 2 社から 5 冊、書写は 2 社から 5 冊、算数は 3 社から 5 冊でございます。

特別支援学級におきましては、児童一人一人の障害の実態等に対応する必要があることから、教科ごとに通常の学級で使用される文部科学省検定済み教科書を同様に使用する児童や、文部科学省著作教科書を使用する児童、本報告書に示されている図書を教科書として使用する児童など、個々に使用することになる教科書が異なることを踏まえ、同委員会が十分に精査、検討した上で本報告書が作成されております。

委員の皆様には、御意見等がございましたら御協議いただき、御採択くださいますよう、お願いいたします。

また、中学校の特別支援学級教科用図書につきましては、令和 7 年度は該当する生徒の実

態から全ての教科において、通常の学級で使用される文部科学省検定済み教科書を使用し、適宜、補助教材を活用して指導することが望ましいと同採択委員会が協議、判断をしたため、教科書採択資料作成委員会報告書をもって報告する該当図書はないとのことでございます。

なお、文部科学省検定済み教科書につきましては、先ほどの議案第 39 号で議決をいただきました教科書でございますので、詳細につきましては別紙を御確認ください。

特別支援学級在籍の児童・生徒につきましては、一人一人の実態に応じて採択を経た文部科学省検定済み教科書、もしくは文部科学省著作教科書、または本日これから御採択いただく、いわゆる一般図書のいずれかを教科書として、教科ごとに 1 冊ずつ無償で配布し、学習に供することとなりますので、御理解を賜りますようお願いをいたします。

以上でございます。

○池谷教育長 これより質疑に入ります。

なお、質疑につきましては一括して行うことといたします
委員の皆様、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○池谷教育長 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終わります。

これより討論に入ります。

なお、討論につきましても一括して行うことといたします。

(発言する者なし)

○池谷教育長 討論なしと認めます。

これをもって討論を終わります。

これより議案第 40 号 武蔵村山市立小学校特別支援学級令和 7 年度使用教科用図書の採択についてを採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○池谷教育長 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり決しました。

◎日程第 4 その他

○池谷教育長 日程第 4、その他に入ります。

委員の皆様からの報告等の御発言があればお受けいたします。

(発言する者なし)

○池谷教育長 事務局からの報告等の御発言があればお受けいたします。

(発言する者なし)

○池谷教育長 これをもって、その他を終わります。

◎閉会の辞

○池谷教育長 以上で、本臨時会に付議されました案件の審議は全部終了いたしました。

これをもって、令和6年第1回教育委員会臨時会を閉会いたします。

長時間ありがとうございました。

午後2時08分閉会